

宮古市埋蔵文化財調査報告書 5
Archaeological Researches in Miyako

赤前遺跡群 第1次・第2次発掘調査報告書

Archaeological Researches in Akamae Sites

A Report on The 1st., 2nd. Research

1984



HH03住居跡出土遺物 Photo. 1

岩手県宮古市教育委員会

The Board of Education Miyako, Iwate Pre.

序 文

三陸地方の沿岸部には、古くから数多くの遺跡の所在が知られておりました。私たちの住む宮古市にも先人たちが残した貝塚や館跡、そして集落跡など300ヶ所にも及ぶ遺跡があるといわれております。

これらの遺跡は数千年前の縄文時代から中近世までの長きにわたる歴史を、現在に語り伝えてくれる貴重な財産であり、欠けがえのない文化財であります。私たちはこのような遺跡を、正しい理解とともに後の世に残していく責務があると考えております。

本書は赤前地区で行われた発掘調査の結果をまとめたもので、平安時代の住居跡など約千年ほど前の人々が残した暮らしの跡が記録されております。報告書として刊行することにより、文化財への理解がなお一層深まることを願うとともに、調査記録として末長く活用されんことを望み、序文といたします。

昭和59年3月

宮古市教育委員会

教育長 野口健造

例 言

1. 本書は宮古市太字赤前地区に所在する赤前遺跡群の第1次および第2次発掘調査の報告書である。

2. 第1次調査の現地確認および試掘調査は岩手県教育委員会文化課より派遣の文化財主査により実施された。また第1次調査の本調査および第2次調査は宮古市教育委員会社会教育課主事武田将男が行った。

3. 調査にあたり下記の各位の御理解と御協力を賜りました。御芳名を記して深甚なる謝意を表します。

第1次調査

柳沢鶴哉・佐々木正吉・山崎九一郎・上田洋子・長沢リワ・宇都宮良子・佐々木京子

佐々木ヤエ・佐々木三枝子

宮古市文化財保護審議会委員 中嶋隆・田村忠博

岩手大学考古学研究会 高橋憲太郎・渡辺栄次

第2次調査

地権者 佐々木正吉・大黒民男

杉田功・杉田克・松原勇平・船越久吾郎・船越孫三郎・柳沢鶴哉・山崎九一郎・伊藤豊

佐々木シホ・佐々木キクミ・久保田ソメ・久保田タケ・山根キミ・中野シズエ

赤前小学校教職員各位

4. 本書の編集は宮古市教育委員会が行い、執筆・図版作成・写真撮影は武田が担当した。また、図版作成にあたり鈴木美奈子氏の協力があった。

5. 遺物表示について

- ・拓影遺物中繊維を含む土器及び還元焰焼成の陶質土器を各々次のように表わした。
- ・磨石の機能磨面はアミ点で示した。



繊維を含む土器



還元焰焼成の陶質土器

6. 調査体制について

第1次調査（昭和54年度）

谷口忠一（前社会教育課長）

小林制司（前社会教育係長）

社会教育主事 沼崎幸夫

第2次調査（昭和57年度）

社会教育課長 藤田利美

社会教育係長 若狭健一郎

社会教育主事 沼崎幸夫

調査要旨

赤前遺跡群

宮古市は宮城県牡鹿半島から青森県八戸市に至る三陸海岸のほぼ中央に位置し、ここを界に北には隆起性の段丘海岸、南には沈降性のリアス式海岸が見られる。

赤前遺跡群はリアス式海岸北端の湾入である宮古湾の湾頭部に位置し、標高約15~40mの山麓緩斜面と、背後の山地から流れ出る小河川によって形成された扇状地斜面に立地している。遺跡群は6遺跡で構成されており、縄文時代・平安時代及び中世の館跡と各期にわたっている。

発掘調査

発掘調査は遺跡群のうちAk04およびAk03遺跡の一部について2次にわたり実施された。第1次調査は赤前小学校の移転用地を対象に行われたもので、Ak04遺跡の南半の一部から竪穴が3棟検出された。調査の結果検出された竪穴はいずれも平安時代に属する遺構と考えられる。出土遺物は、遺構に伴う土師器製の他にフイゴ羽口や「穂摘み具様鉄器」あるいは「穂切り具」といわれる鉄製品の出土があった。

第2次調査は宅地造成工事に伴い実施されたもので、Ak03遺跡の北部にあたる地域を対象とした。尾根を隔ててA、B2地区を調査した結果、竪穴3棟と土壇2基が検出された。竪穴3棟のうちB地区の2棟は平安時代の住居跡と考えられ、土師器・須恵器の他に特殊な鉄製品が出土している。なおA地区で検出された遺構については伴出する遺物が無く時期を確定することはできなかった。

目 次

序 文 宮古市教育委員会
教育長 野口 健 造

例 言

調査要旨

目 次

I 遺跡群の立地と環境

1. 地理的環境	1	page
2. 遺跡群の立地	1	

II 調査に至る経過と調査概要

1. 第1次調査	4
2. 第2次調査	5

III 調査内容と結果

1. 第1次調査の遺構と遺物	9
HH01 竪穴住居跡	15
HH02 竪穴住居跡	19
HH03 竪穴 竪穴住居跡	31
2. 第2次調査の遺構と遺物	
A地区	47
B地区	56
HH04 竪穴住居跡	58
HH05 竪穴住居跡	64

挿 図 目 次

Fig. 1. 三陸沿岸の遺跡と赤前遺跡群の位置	2	page
2. 地形分類図	3	
3. 赤前遺跡群と調査地区	6	
4. 第1次・第2次調査対象地域	8	
5. 基本土層	9	
6. 第1次調査トレンチ設定図	11	
7. 第1次調査検出遺構図	13	
8. HH01 竪穴住居跡	15	
9. HH01 出土遺物	16	
10. HH02 竪穴住居跡	20	
11. HH02 カマド	21	
12. HH02 出土遺物	26	
13. HH02 出土遺物	27	
14. HH03 焼土施設	31	
15. HH03 竪穴	32	
16. HH03 出土遺物	38	
17. HH03 出土遺物、包含層遺物	39	
18. 包含層出土石器	40	
19. 包含層出土石器	41	
20. 包含層出土土器	42	
21. 包含層出土土器	43	
22. A地区土層堆積状況	47	
23. A地区検出遺構	48	
24. XH06	51	
25. A地区出土遺物	54	
26. B地区トレンチ設定図とトレンチ出土遺物	57	
27. HH04 竪穴住居跡	59	
28. HH04 出土遺物	62	
29. HH05 竪穴住居跡	65	
30. HH05 出土遺物	68	
31. HH05 出土鉄製品	71	

写真目次

Photo. 1. HH01 出土遺物	内表紙
2. 赤前遺跡群遠景空中写真	1 page
3. 赤前地区航空写真	7
4. E5、E9トレンチ	10
5. Section2土層堆積状況	10
6. HH01 竪穴住居跡	17
7. HH01 遺物出土状況	17
8. HH01 埋土堆積状況	18
9. HH01 出土遺物	18
10. HH02 竪穴住居跡	19
11. HH02 カマド	21
12. HH02 カマド1-a	22
13. HH02 カマド1-b	22
14. HH02 カマド2-a	23
15. HH02 カマド2-b	23
16. HH02 カマド3-a	24
17. HH02 カマド3-b	24
18. HH02 カマド断面	25
19. HH02 煙道部	25
20. HH02 カマド構築土中土器	28
21. HH02 出土遺物	28
22. HH02 出土遺物	29
23. HH02 出土遺物	29
24. HH02 カマド出土支脚-a	30
25. HH02 カマド出土支脚-b	30
26. HH03(西より)	33
27. HH03 石組み	33
28. HH03(東より)	34
29. HH03 石組み	34
30. HH03 石組み堆積土	35
31. HH03 石組み崩壊状況	35
32. HH03 石組み	36
33. HH03 石組み	36
34. HH03 フイゴ羽口出土状況	37
35. HH03 遺物出土状況	37
36. HH03 出土土器	44
37. HH03 出土羽口	44
38. HH03 出土遺物	45
39. 包含層出土土器	45
40. 包含層出土石器	46

Photo. 41. 包含層出土石器	46	page
42. A地区全景(北より)	49	
43. A地区調査状況	49	
44. N28ライン土層堆積状況	50	
45. N28ライン土器出土状況	50	
46. XH06埋土堆積状況	52	
47. XH06	52	
48. XH06(南東より)	53	
49. XH06柱穴断面	53	
50. A地区出土遺物	55	
51. A地区出土土器	55	
52. "	55	
53. B地区遠景	56	
54. HH04 竪穴住居跡	58	
55. HH04 竪穴住居跡	60	
56. HH04 土壇内遺物出土状況	60	
57. HH04 埋土堆積状況	61	
58. HH04 カマド断面	61	
59. HH04 出土遺物	63	
60. HH04 出土遺物	63	
61. HH05 竪穴住居跡	64	
62. HH05 カマド	66	
63. HH05 土壇出土遺物	66	
64. HH05 埋土堆積状況	67	
65. 遺跡見学会	67	
66. HH05 出土遺物	69	
67. HH05 出土遺物	69	
68. HH05 出土遺物	70	
69. HH05 出土鉄製品	70	
70. HH05 出土鉄製品	71	

I 遺跡群の立地と環境

三陸海岸は宮古市を境として南は牡鹿半島までの沈降性のリアス式海岸と、北は八戸に至る隆起性の段丘海岸という対称的な景観を見せている。南半のリアス式海岸には各地に貝塚が残されており、特に陸前高田市・大船渡市などの気仙地方には大規模な貝塚が多数見られる。(Fig.1)

宮古湾はリアス式海岸の北端に位置し、重茂半島の閉伊崎から湾頭の津軽石川河口までの奥行き約10kmの北に開いた湾である。水深は湾央部で約20mと比較的浅く、湾内ではカキなどの養殖が行われている。

赤前遺跡群はこの宮古湾の湾頭部東岸に位置し、ここからは東にサケのそ上する津軽石川河口を望み、北は閉伊川河口付近や湾口部まで見渡すことができる。遺跡群は6遺跡で構成されており、赤前館(Ak-02)を除き標高約15m~40mの山麓地ないしは、小河川をとり込んだ扇状地形の部分に所在している。(Fig.2)

遺跡群中Ak-03、Ak-04は重茂半島を構成する中起伏山地から流れ出る小河川により形成された扇状地に立地しており、北西向きのだらかな斜面上に遺跡が所在している。

Ak-05、Ak-06は尾根状の張り出しにとり囲まれた地域で、小さな沢や湧水をとりこんだ緩斜面の地域である。Ak-02赤前館は標高約50mの尾根状の張り出しに築かれており、遺跡の性格上、遺跡群中ここだけが特異な立地を示す。Ak-01は平野部と山地との間に形成されたのだらかな扇状地斜面上に立地し、南を尾根状の張り出し、北を赤前館の尾根で区切られた範囲である。西方は水田となっておりかつては海水が湾入していたものと考えられる。(Fig.3)

地理的環境

遺跡群の立地



赤前遺跡群遠景

Photo. 2

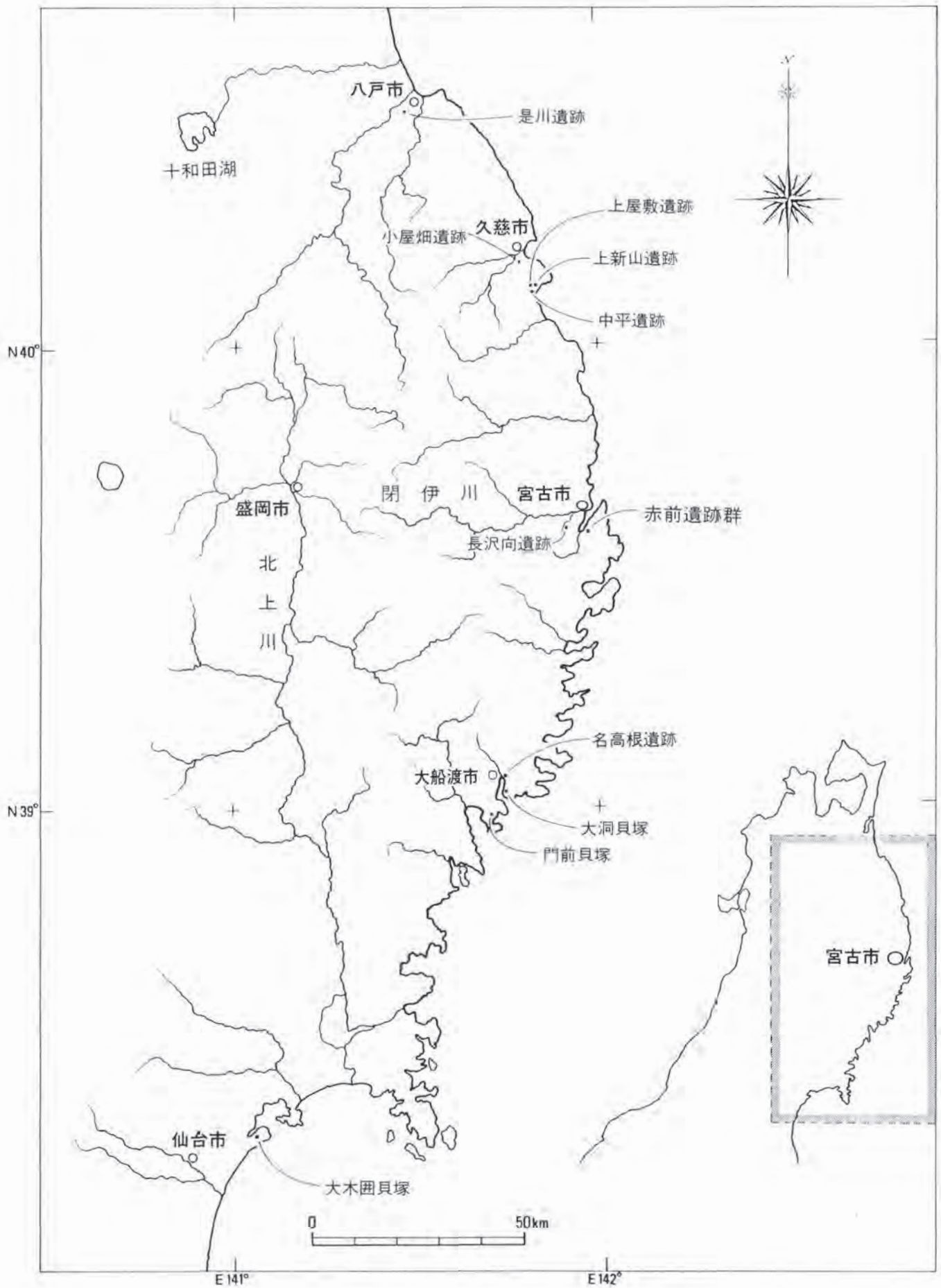


Fig. 1

三陸沿岸の遺跡と赤前遺跡群の位置



- | | | |
|--|---|--------------------------------------|
| <p>■ 小起伏山地
Low relief mountain</p> | <p>■ 中起伏山地
Middle relief mountain</p> | <p>■ 丘陵地
Hilly land</p> |
| <p>F 扇状地
Fan</p> | <p>Pd 山麓地及び他の緩斜面
Piedmont low land
and other gentle slope</p> | <p>P 谷底平野及び氾濫平野
Valley plain</p> |

地形分類図

Fig. 2

II 調査にいたる経過と調査概要

1. 第1次調査

遺跡名	赤前遺跡群 Ak-04遺跡
調査地区	宮古市大字赤前第11地割字八枚田
調査原因	赤前小学校新校舎建設
調査期間	現地確認調査 昭和54年6月27日～昭和54年6月28日 調査主体 岩手県教育委員会文化課 試掘調査 昭和54年11月1日～昭和54年11月2日 " "
	本調査 昭和54年11月26日～昭和54年12月27日 " 宮古市教育委員会
調査対象面積	21,159㎡
調査面積	952㎡（試掘調査トレンチ357㎡、本調査地区595㎡）
検出遺構	竪穴住居跡 3棟（平安時代）、遺物包含層（縄文時代早期）
出土遺物	土師器、須恵器、鉄器、砥石、フイゴ羽口、鉄滓、縄文土器（早期）、磨石、剥片石器
調査経緯	<p>第1次調査は赤前小学校の移転・新築に伴い、用地内の埋蔵文化財の有無を確認するため現地確認および試掘調査を実施したところ、グラウンド予定地の一部から竪穴が検出され、本調査に至ったものである。本調査は検出された竪穴の周辺を中心にトレンチを拡張し、竪穴近辺での遺構の有無を確認するとともに、微地形などから遺構の存在が予想される地区については試掘調査のトレンチを一部拡張して再確認した。用地内の全域にわたり遺構存在の有無を再確認するように努め、竪穴の存在範囲を明らかにすべく検出作業を行った。その結果、一部に土師器が出土する地点も見られたが、遺構は頭初に検出された竪穴の周辺に集中することがわかり、この地区を中心に精査を行った。(Fig.6)</p> <p>精査を行った約600㎡の地区からは比較的近接して3棟の竪穴住居跡が検出され、それぞれについて遺構精査を行った。(HH01～HH03)</p> <p>また基本土層を確認するため2ヶ所にセクションベルト及びサブトレンチを設定し観察記録を行った。(Section1, Section2) (Fig.7)</p> <p>HH01 HH01は調査に入った時点ですでにブルドーザーで削られていたが、土色の変化から検出作業を行ったところ、かろうじて竪穴の約半分が遺存していることがわかった。床面から土師器砥石などの遺物が出土している。</p> <p>HH02 試掘調査で最初に検出された竪穴で、本調査のきっかけともなった遺構である。フランも明瞭に検出され、カマド煙道部構築土が検出面で見られた。検出面は北に下る緩やかな斜面で、竪穴の南北軸の壁間約5.5メートルではほぼ50センチメートルの高低差がある。</p> <p>HH03 HH02から東へ約35メートルの地点で検出され、南壁に燃焼施設が見られた。この竪穴は縄文時代早期の遺物包含層を掘り込んで構築されており、竪穴埋土中からも縄文時代早期の遺物が多数出土した。検出時点では黒色土が楕円形に見られ竪穴のフランは明確に把握できなかった。</p>
遺物包含層	縄文時代早期の限られた時期の遺物を含む土層がHH03の周辺で確認された。

2. 第2次調査

遺跡名	赤前遺跡群 Ak-03遺跡
調査地区	A地区 宮古市大字赤前第10地割字山崎98番 B地区 宮古市大字赤前第11地割字八枚田65-1、67、68、69-1、69-3、70-1
調査原因	宅地造成工事
調査期間	昭和57年8月26日～昭和57年11月16日
調査対象面積	A地区 1,114㎡ B地区 2,409㎡
調査面積	A地区 704㎡ B地区 1,078㎡
検出遺構	A地区 建物遺構1棟 土壇2基 B地区 竪穴住居跡2棟（平安時代）
出土遺物	A地区 縄文時代中期土器および石器 B地区 土師器、須恵器、鉄器、砥石、ファイゴ羽口、鉄滓、天目茶碗

第2次調査は宅地造成工事に伴うもので、近接したA、Bの2地区について実施した。第1次調査の結果から当該地区にも遺構の存在が予想され、特に第1次調査で検出されている平安時代の竪穴と同時期の遺構があるかどうかを確認することが調査の目的のひとつとなった。

A地区 B地区と尾根を隔てた西側の地区である。調査は南北、東西方向の基本軸線から4メートルグリッドを設定しこれに沿って検出作業を進めた。調査区は北方向へ緩やかに下る斜面で高低差の最大は約3.5メートルである。

XH06 調査区の中央部に検出されたものであるが、平坦面を作り出し周溝を付して、そこに柱穴を9ヶ所（中央、角、壁ぎわ中央）に穿っている。生活面からの遺物の出土は無く、時期は確定できなかった。

XP01 いずれもすりばち状の残い土拵で、埋土中及び底面からの遺物の出土は無く時期不明である。

XP02 XP02は底面を黄褐色砂質シルトでおおっている。

2次におたる調査で、平安時代の竪穴住居跡が5棟、時期不明の建物跡1棟そして土壇が2基検出され、また遺物としては住居跡に伴出した土師器、須恵器、鉄器などの他に、縄文時代早期及び、中期の遺物が確認された。

カマド方向 平安時代と考えられる5棟の竪穴住居跡のうち3棟が西カマド（HH02、HH04、HH05）で、南壁に煙道をもつもの1棟（HH03）そしてカマド位置不明（西か北のいずれか、あるいはカマド無しか）が1棟（HH01）である。HH03は構造やファイゴ羽口等の伴出遺物から見て、通常の住居に伴うカマドとは性格を異にするものと考えられる。

竪穴から出土する土師器は、ほとんどが甕で坏の出土はHH01の埋土に見られるのみで他の竪穴からは破片としても1点も確認されていない。

鉄器 HH02及びHH05から特殊な鉄製品がまとまって出土している。

（註）遺構略称は時代、種別、通し番号で表わす。H＝平安時代、X＝時期不明、H＝家屋

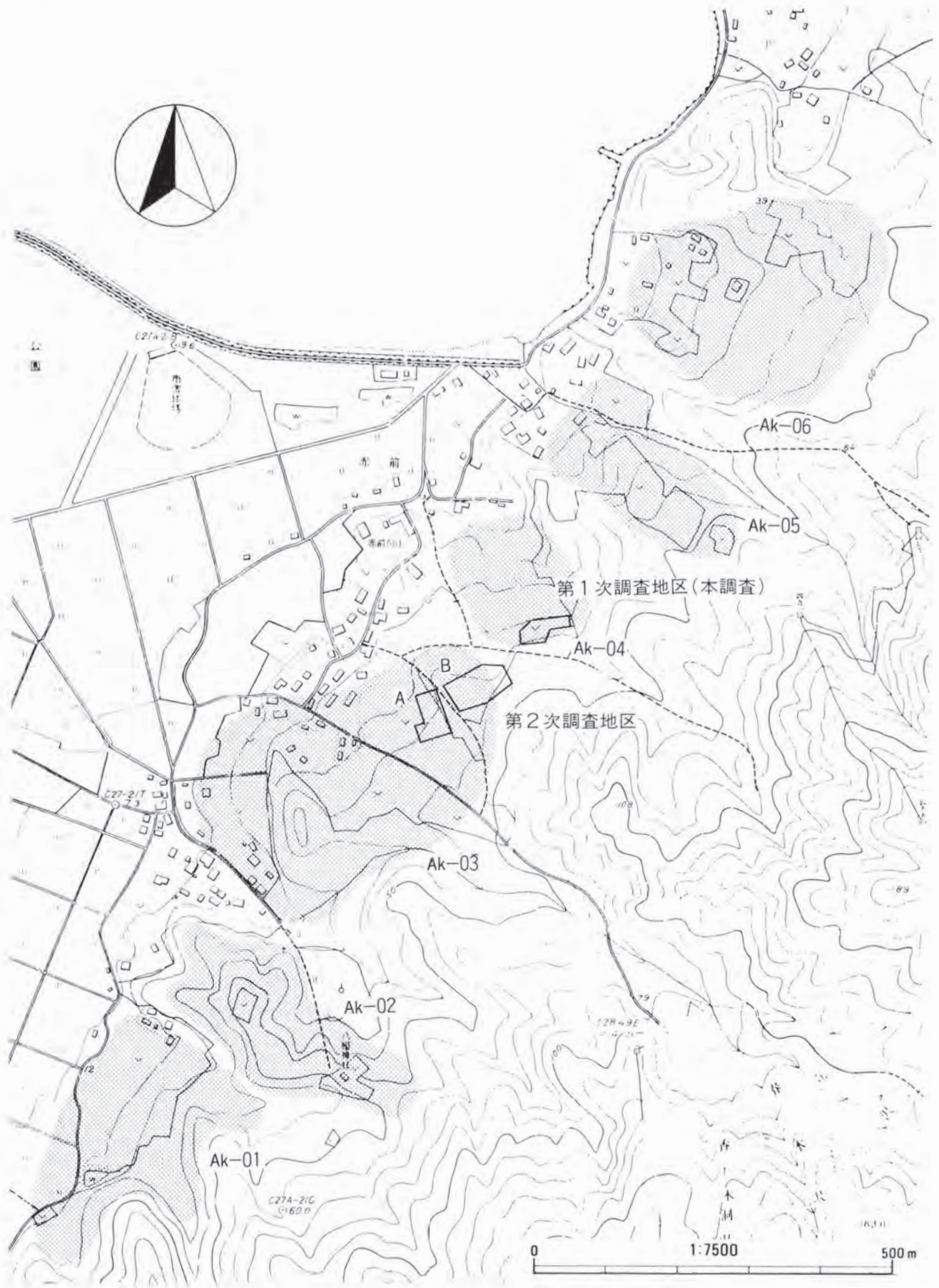


Fig. 3

赤前遺跡群と調査地区



赤前地区航空写真

Photo. 3



Fig. 4

第1次・第2次調査対象地域

III 調査内容と結果

1. 第1次調査の遺構と遺物

第1次調査は学校移転用地内の遺構の有無を確認するため、試掘調査を行うことから始められた。県教育委員会文化課文化財主査による2日間にわたる試掘調査の結果、用地内の北東部に堅穴の存在が確認された。この時確認された堅穴が後述するHH02堅穴住居跡である。

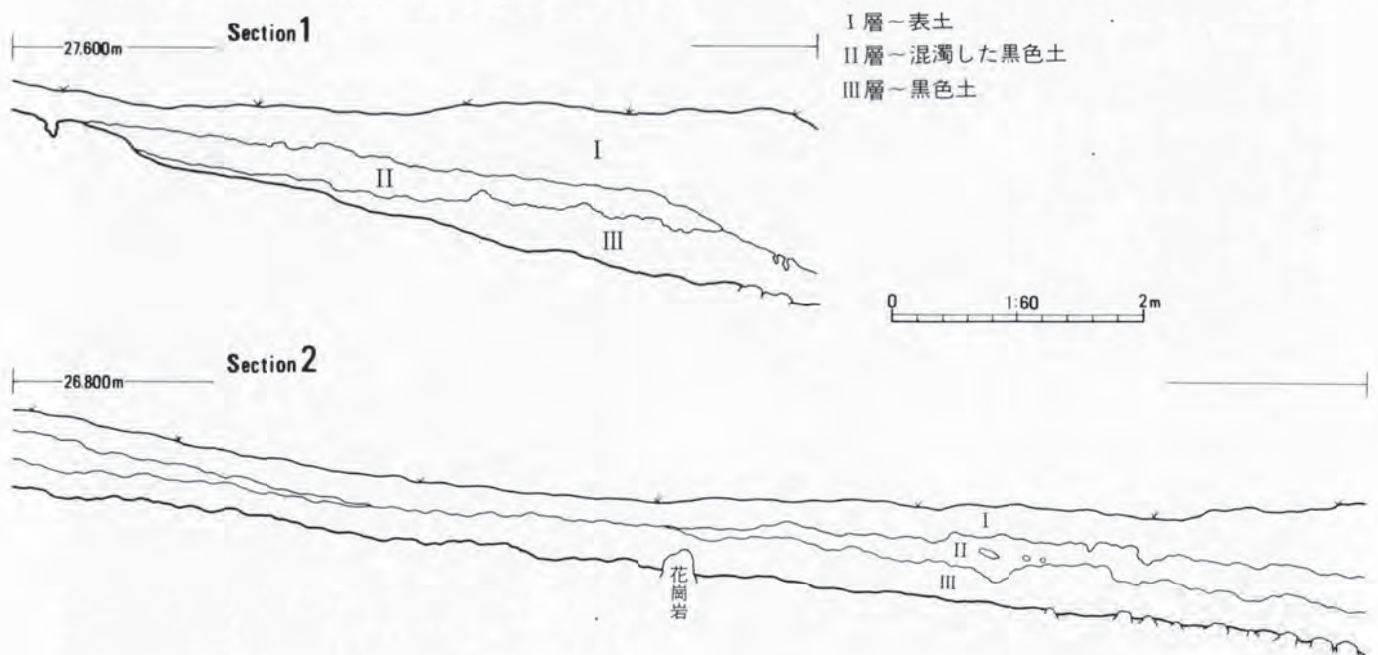
試掘調査の結果を受けた宮古市教育委員会では調査担当者を専従させ本調査にあたらせた。調査では、検出された遺構の周辺をさらに拡張して検出作業を進め、周囲に堅穴などの関連遺構が存在するか否かを確認した。また用地内で遺構の存在が考えられる部分についても、これを確認すべく努めた。

用地内の地形は西側に尾根状の高まりがあり、東は山麓に続く斜面で中央部分が低湿な黒色土堆積地となっている。遺構は東西の緩斜面および尾根上に存在が予想された。西側の尾根では、かなりトレンチが入っているにもかかわらず遺構は検出されなかった。一部に遺物の出土は見られたが用地北東部以外には遺構は確認されず、本調査を北東部に集中することとした。

調査の結果、試掘で検出された堅穴の他にさらに2棟の堅穴が確認された。調査地区ではところにより表土直下が花崗岩の岩塊を含む地山となっており、遺構はこの上に下図のII、III層の黒色土が堆積した部分を選定して構築されている。特にHH03では縄文時代早期の包含層である黒色土を掘り込んで堅穴が構築されていた。

Fig. 6

Fig. 7



基本土層

Fig. 5



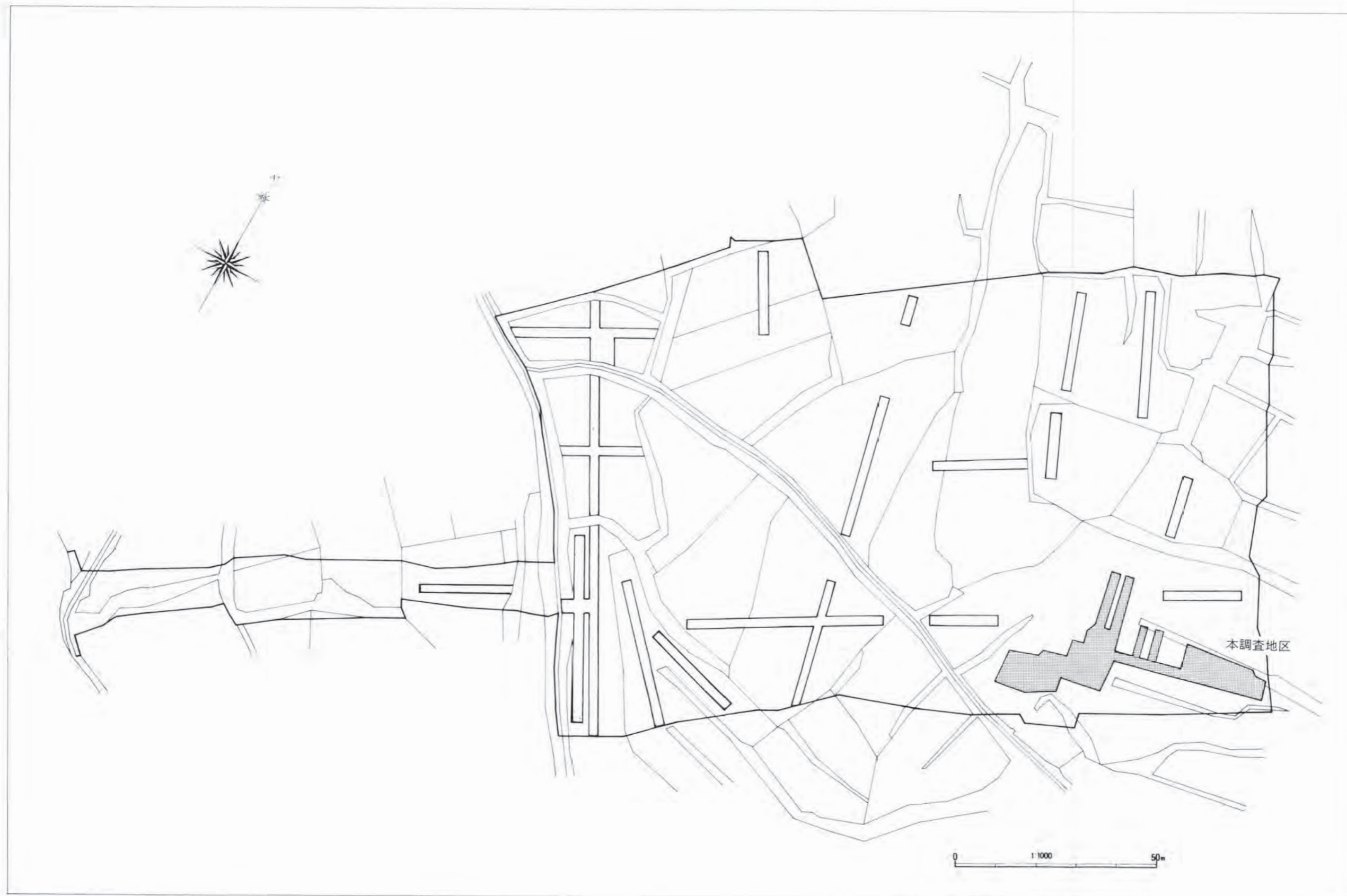
Photo. 4

E5、E9トレンチ



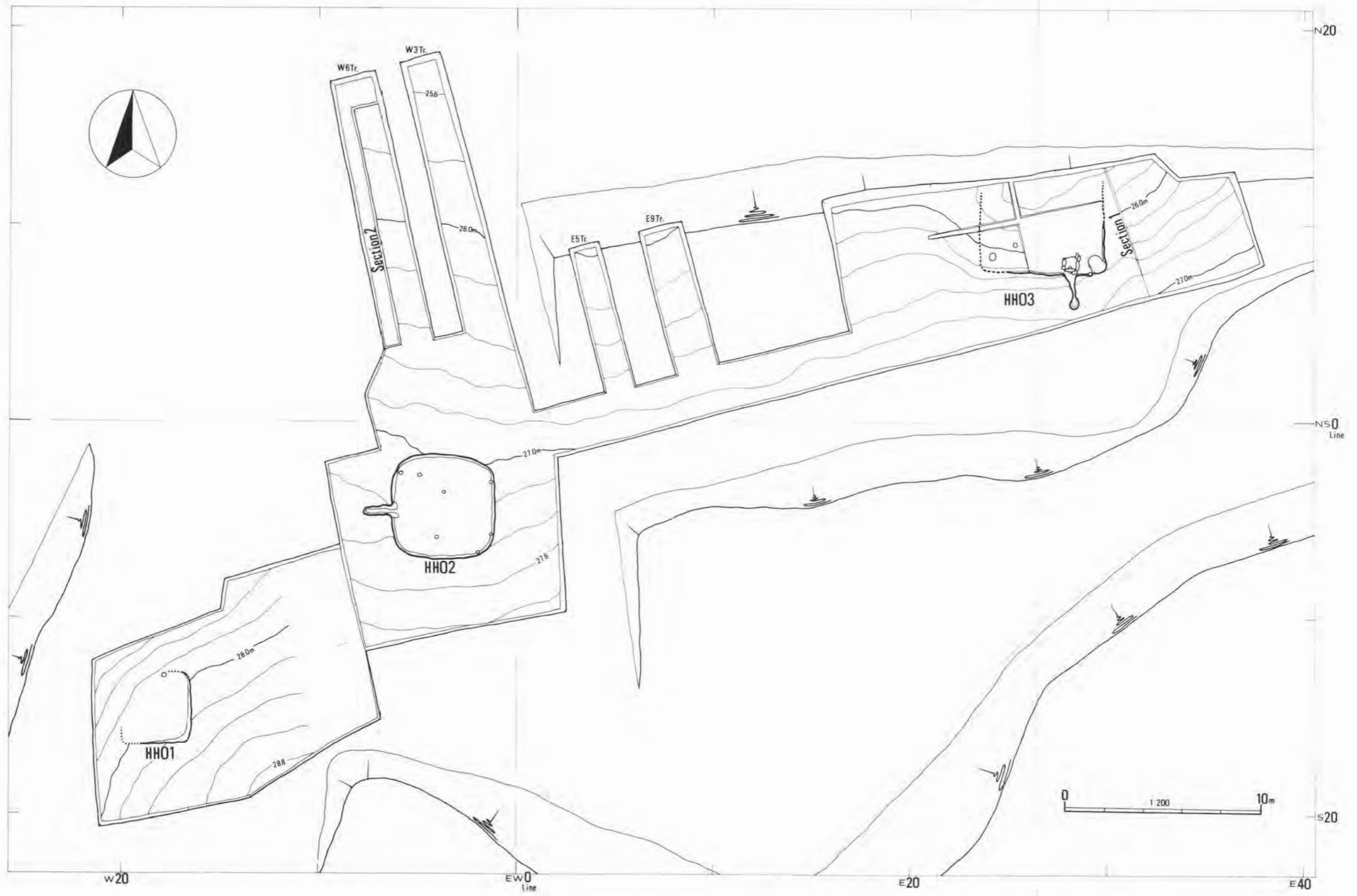
Photo. 5

Section.2 土層堆積状況



第1次調査トレンチ設定図

Fig. 6



第 1 次調査検出遺構図

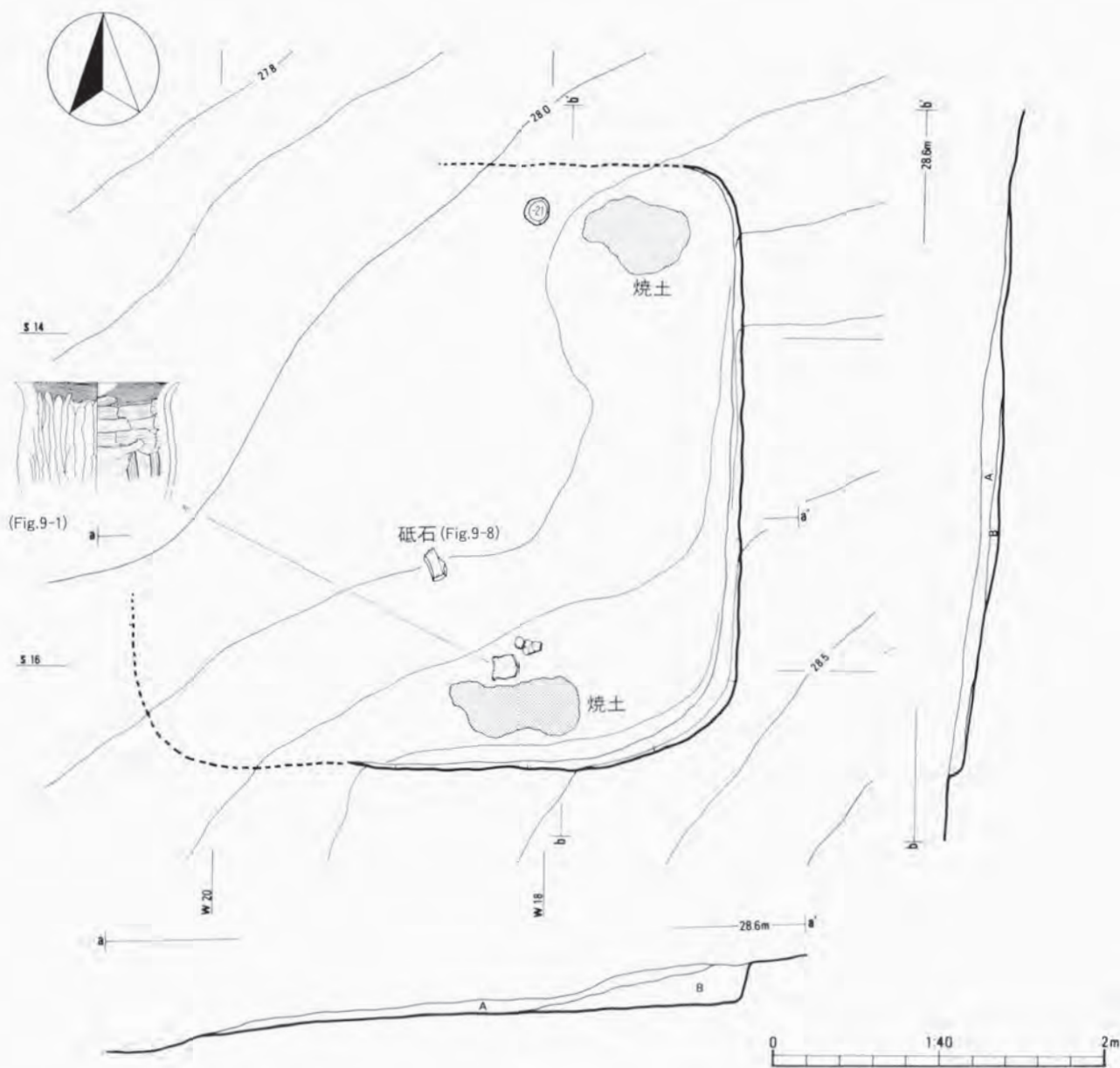
Fig. 7

(1) HH01 竪穴住居跡

本調査区の南西端に検出されたもので、工事関係のブルドーザーによりすでに竪穴の半分以上が削られており、規模やカマド位置などを確認することはできなかった。竪穴東壁はほぼ南北に向いており、この方向で約3.6mの一边をもつ。床面に薄い焼土が2ヶ所に見られた、生活面からは土師器製の破片と砥石が出土している。また覆土からは、第1次・第2次調査あわせて唯一の出土であった内黒の坏の破片が見られた。

出土遺物
(Fig.9)

竪穴の埋土は削平されているためわずかしが残っていないが、自然埋土と思われる。ヒットは相定される北壁のすぐそばに1ヶ所見られるだけであった。カマドの位置は、おおかた北ないし西壁に付くものと考えられる。壁は最も良く残っている部分ではほぼ25cmを計り、きれいに立ち上がる。



HH01 竪穴住居跡

Fig. 8

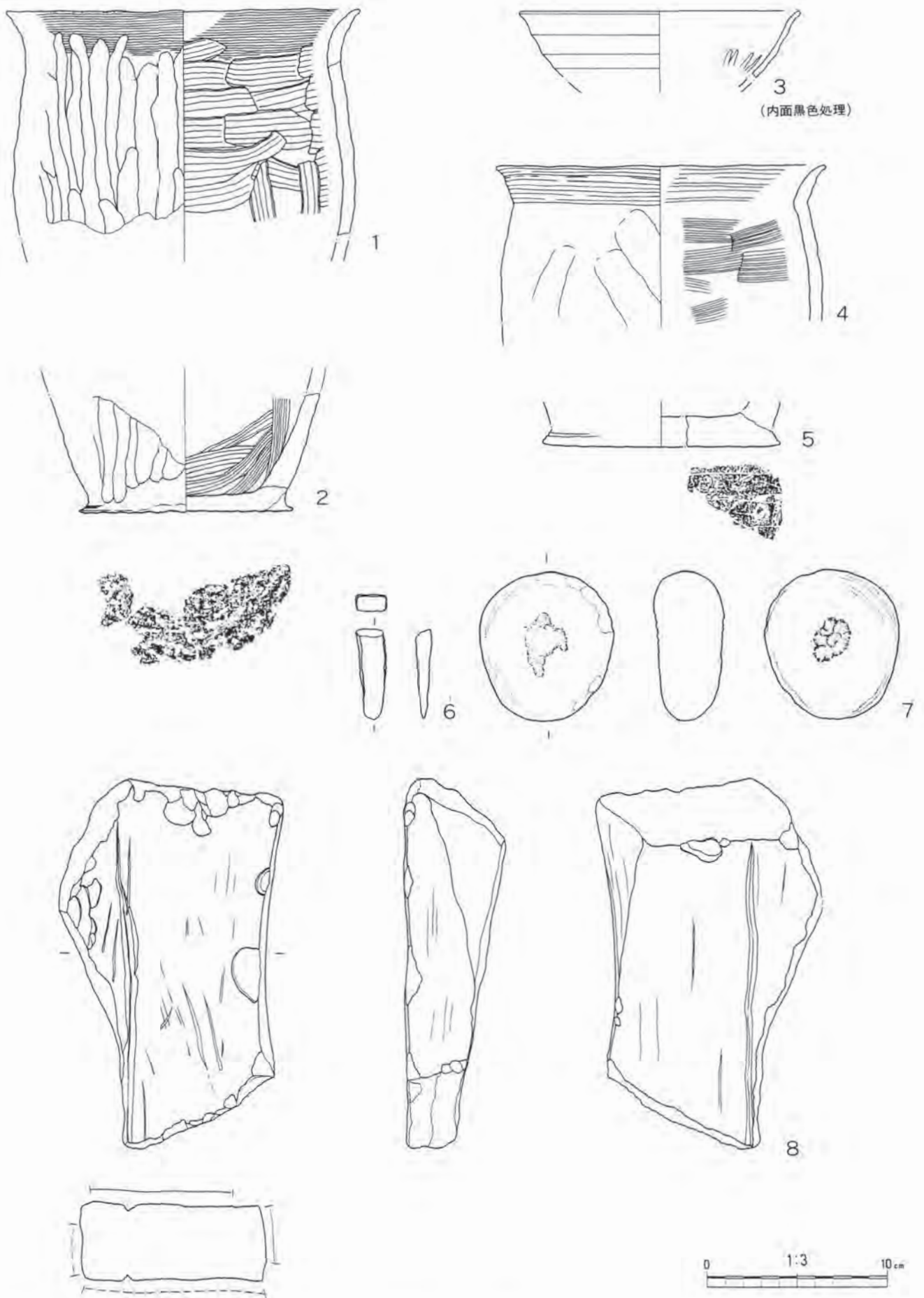


Fig. 9

HH01 出土遺物



HH01 豎穴住居跡

Photo. 6



HH01遺物出土状況

Photo. 7



Photo. 8

HH01埋土推積状況



Photo. 9

HH01出土遺物

(2) HH02 竪穴住居跡

試掘調査の際に検出された竪穴で、本調査区のほぼ中央に位置する。北壁がややふくらむ角丸の方形プランを呈し、東西5.1m、南北5.5mで主軸方向はほぼ真西である。竪穴の南北5.5mで約50cm南に高い緩傾斜面上に作られており、壁高は最も高い部分で約30cmを計る。

プラン
(Fig.10)

ピットは床面に7ヶ所確認されているがいずれも比較的浅いものが多い。配置は中軸線に対して正対称にはならないが、P₄-P₅、P₂-P₃の対応関係は考えられる。

ピット

埋土は自然堆積で黒色土層(A~B層)の下に黒褐色土(C層)が見られ、床面は比較的堅くしまっている。

カマドはかなりしっかりとした作りで、約1.5mの煙道部のうち燃焼部寄りの約 $\frac{1}{3}$ を石で組んであり調査時点でも全く崩壊していなかった。煙道部の構築は、まず溝状に掘り込んだ立ち上がりの両側に石を立てて固定し、その上に偏平な石をのせている。さらにこの石をおおうように、真砂土混じりの粘性土をかぶせ仕上げている。このカマドでは天井部の石の上に土師器の襷の破片を埋め込んであった。これは特に天井部のすき間をうめるとかの機能的なはたらきはしておらず、何らかの非機能的な意図によってこのような状態に埋め込まれたものと考えられる。

カマド
(Fig.11)

カマド燃焼部からはFig.12-17に示す支脚と考えられる土製品が出土している。また鉄製品ではFig.13-24~26に示すいわゆる「穂摘み具様」の鉄器が3点出土している。(うち2点は床面、1点は埋土C層)両端に孔を穿孔し、そこに針状の金具をさし込み木部を固定したものと考えられる。24は針状の金具の先端まで木質が付着している。

鉄製品
(Fig.13-24-26)



HH02 竪穴住居跡

Photo. 10

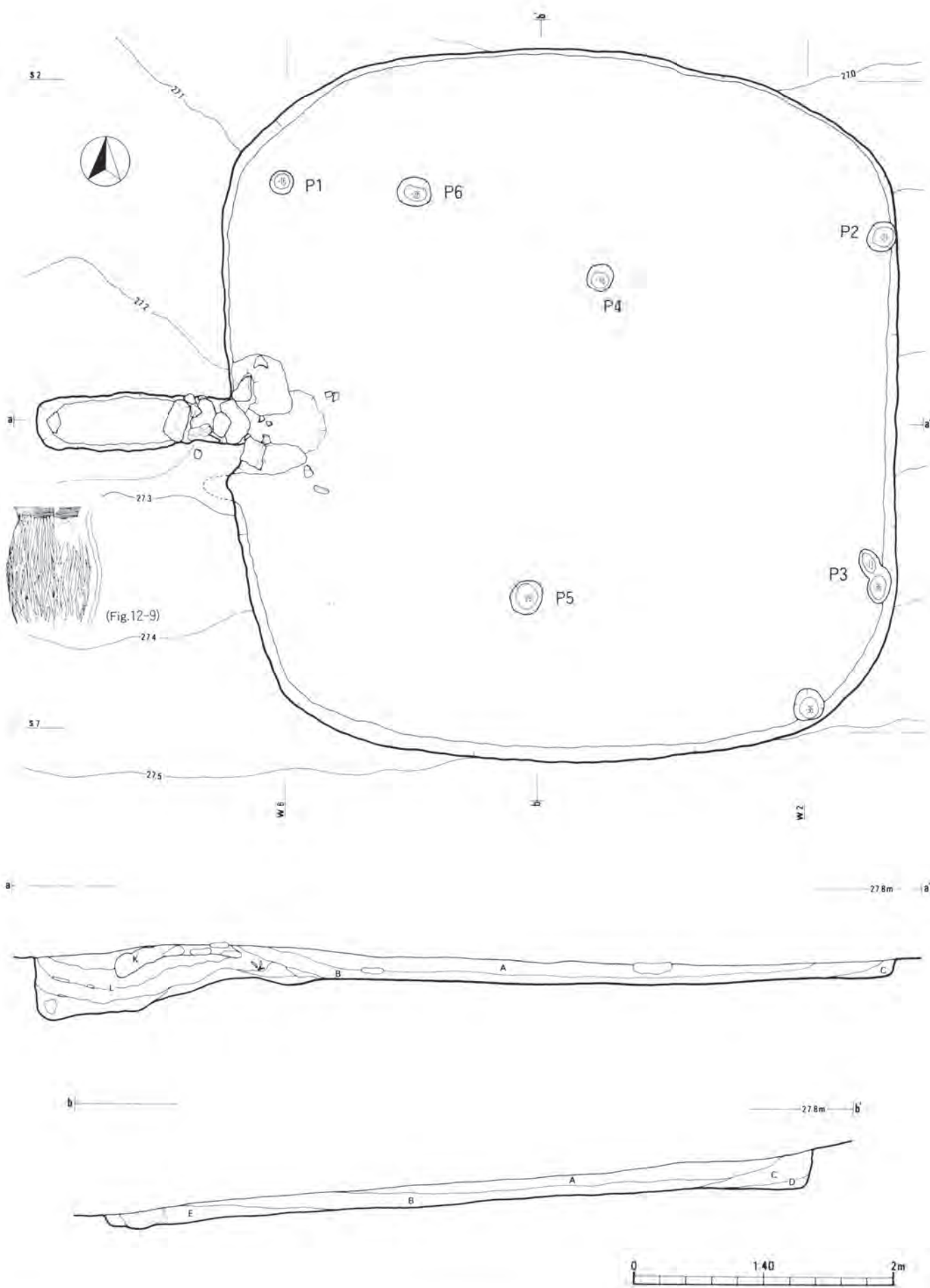


Fig. 10

HH02 竖穴住居跡

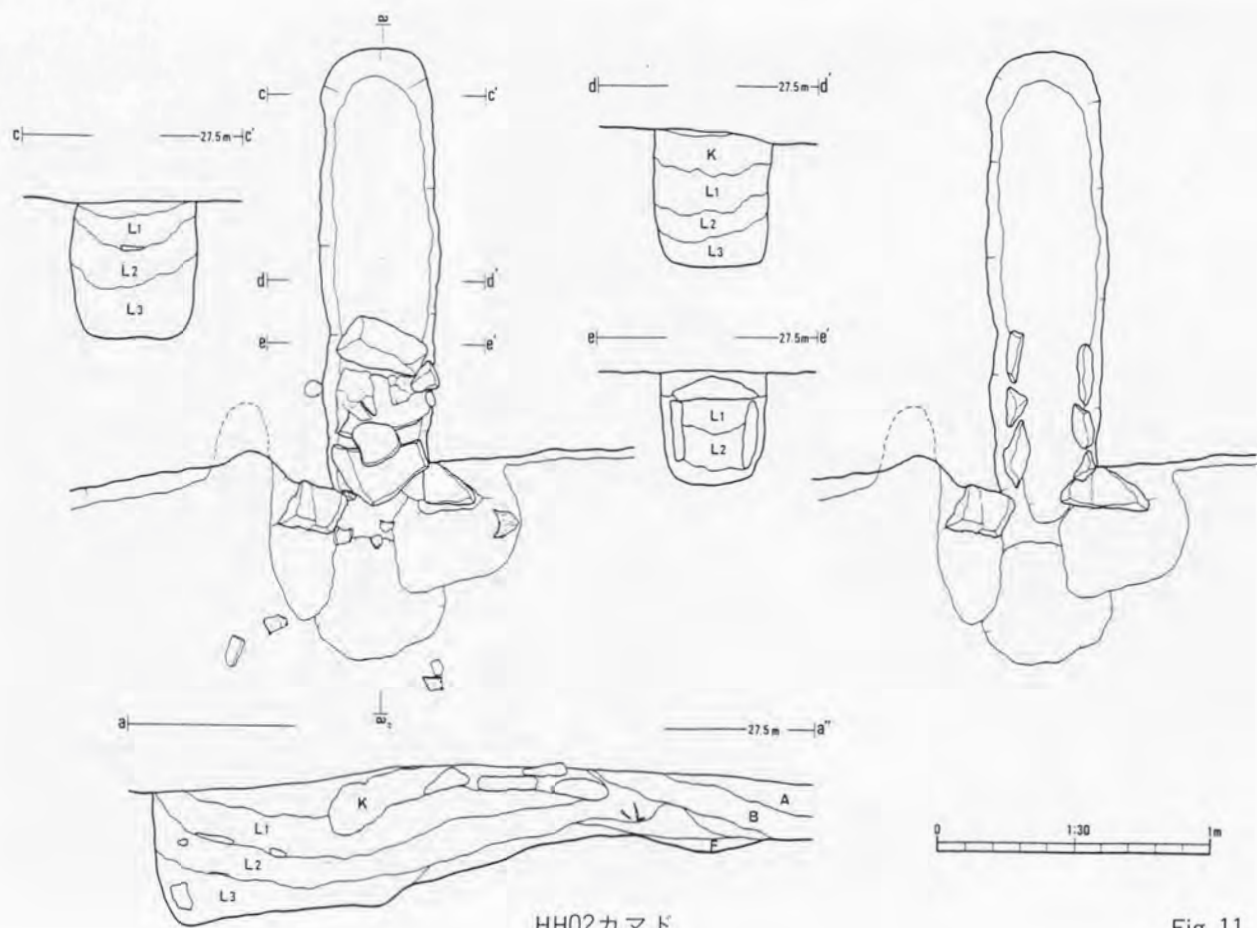


Fig. 11



HH02カマド

Photo. 11



Photo. 12

HH02カマド 1-a



Photo. 13

HH02カマド 1-b



HH02カマド 2-a

Photo. 14



HH02カマド 2-b

Photo. 15



Photo. 16

HH02カマド 3-a



Photo. 17

HH02カマド 3-b



HH02カマド断面

Photo. 18



HH02煙道部

Photo. 19

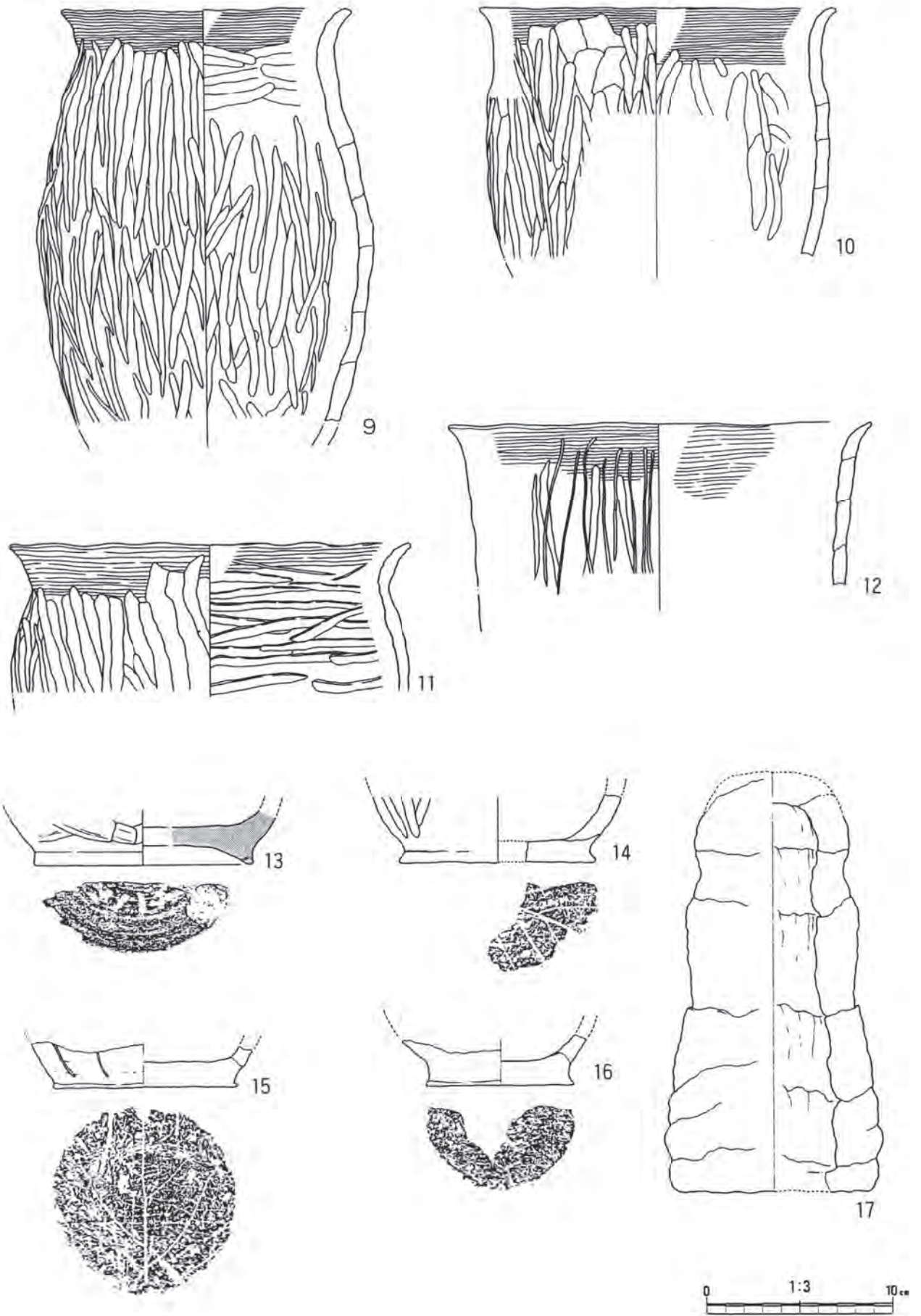
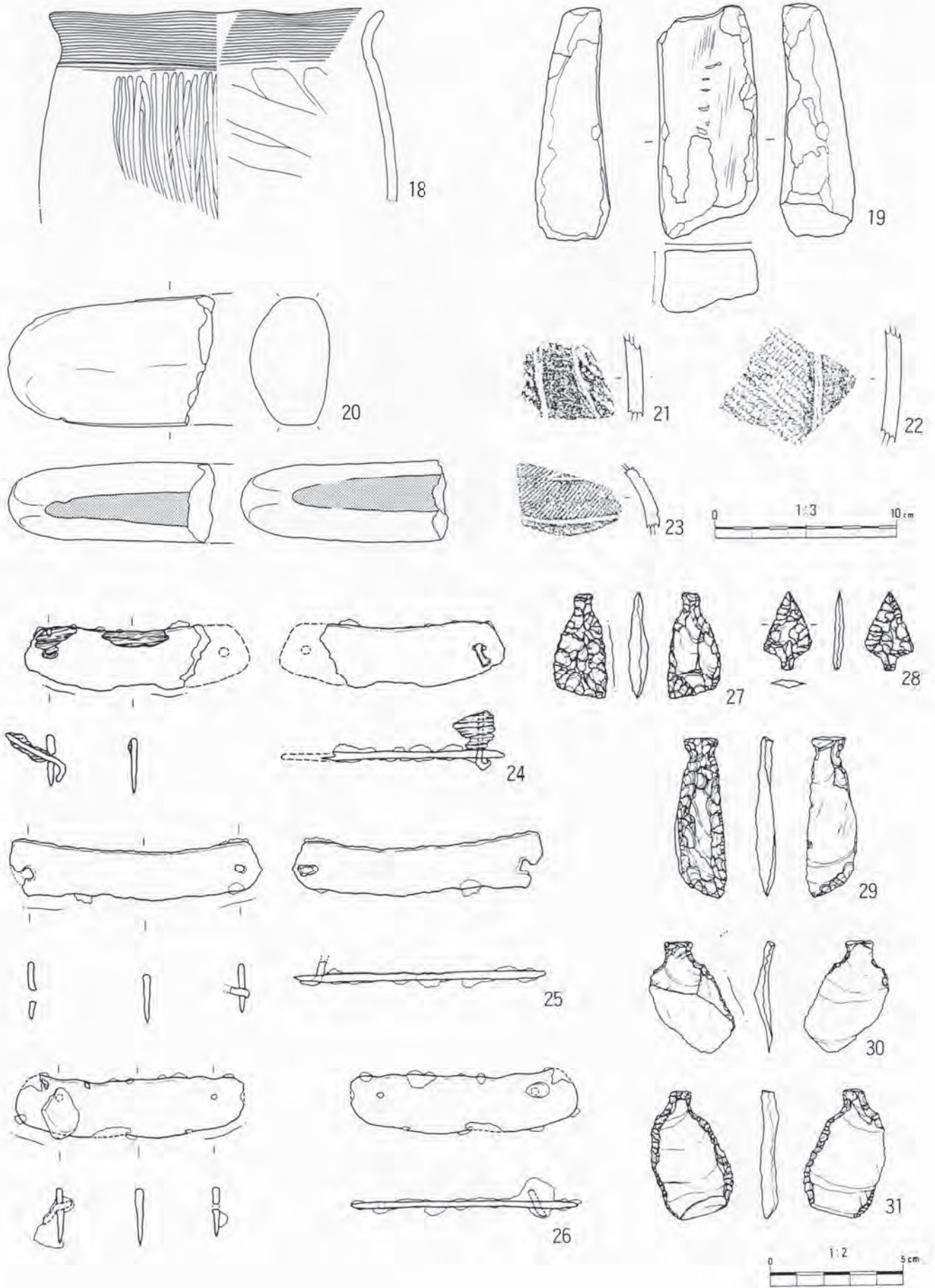


Fig. 12

HH02出土遺物



HH02出土遺物

Fig.13



Photo. 20

HH02煙道部構築土中土器

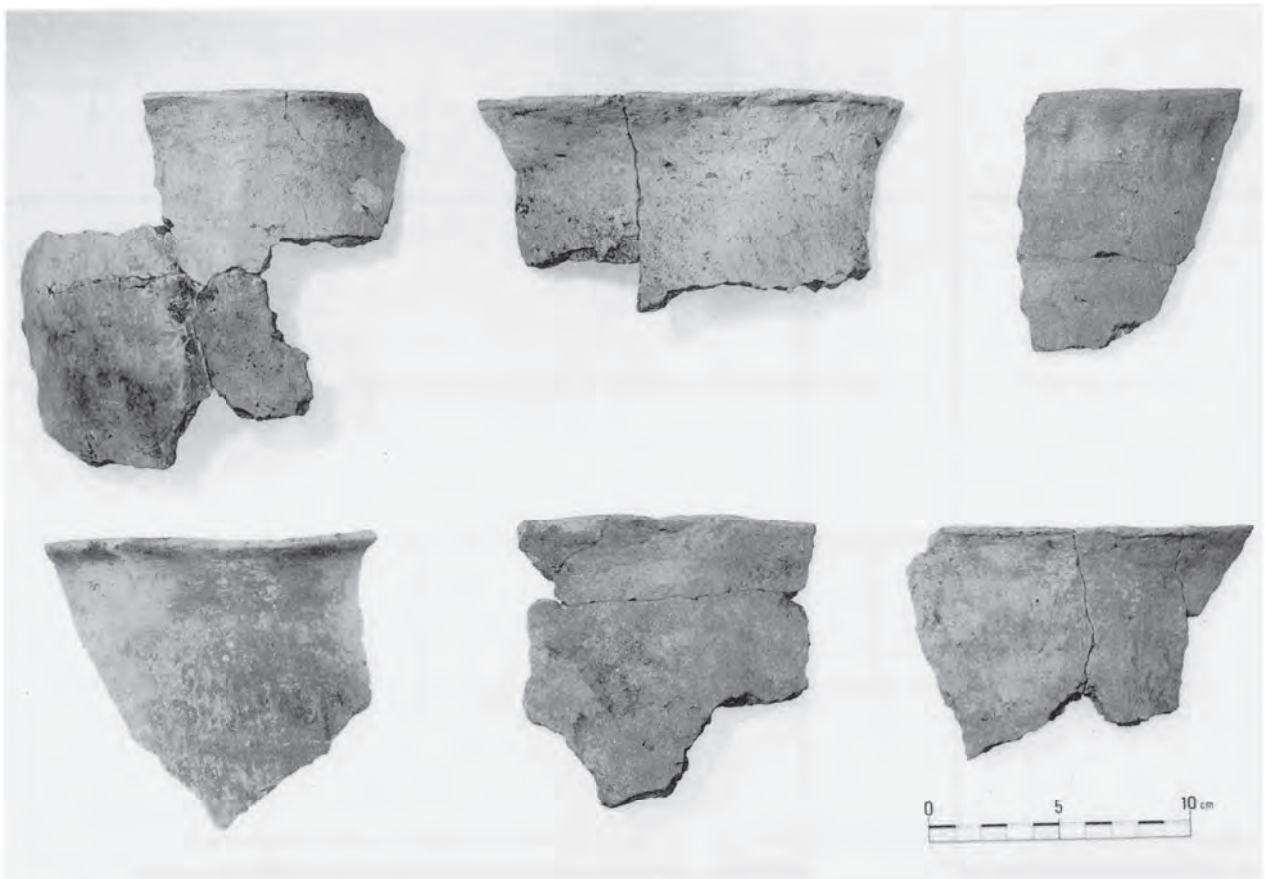
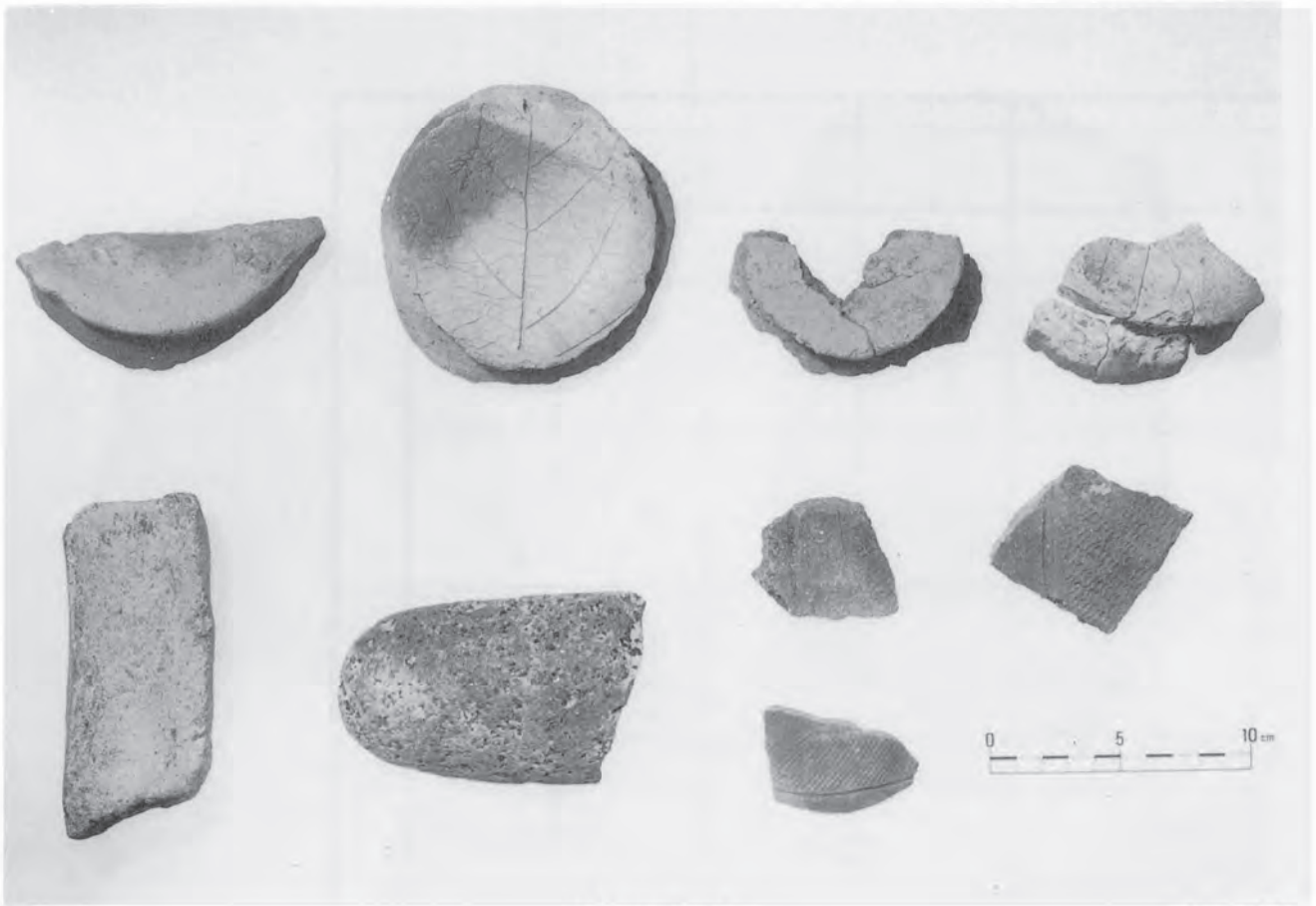


Photo. 21

HH02出土遺物



HH02出土遺物

Photo. 22



HH02出土遺物

Photo. 23



Photo. 24

HH02カマド出土支脚-a

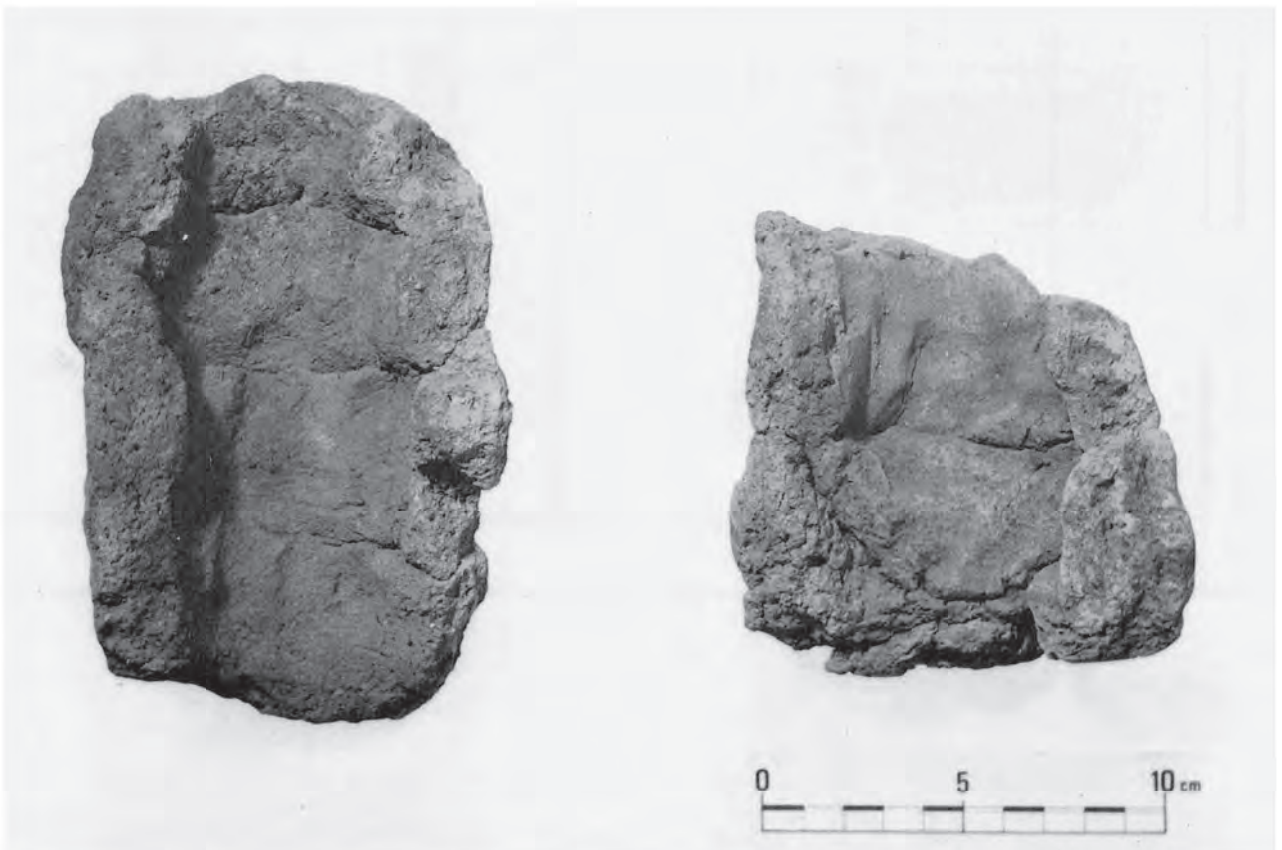


Photo. 25

HH02カマド出土支脚-b

(3) HH03 竖穴住居跡

本調査区の西端に検出された竖穴で、縄文時代早期の遺物包含層を掘り込んで構築されている。検出段階では明らかなプランは見い出せず、黒色土の堆積した範囲が楕円形に表われている状態であった。竖穴の中軸線はS5°Eで、東西6.4m、南北は削平され不明である。

南壁の東寄りに石組みをもつ燃焼施設があり、その西側に崩壊したと思われる石とともに、ファイゴの羽口が3点出土している。石組みの下には地山に含まれる花崗岩の大きな石があり、これを土台としている。崩壊前はかなり大がかりな燃焼施設であったことが想定され、羽口の出土などからも通常の家屋に見られるカマドとは異なる機能・用余があったと考えられる。

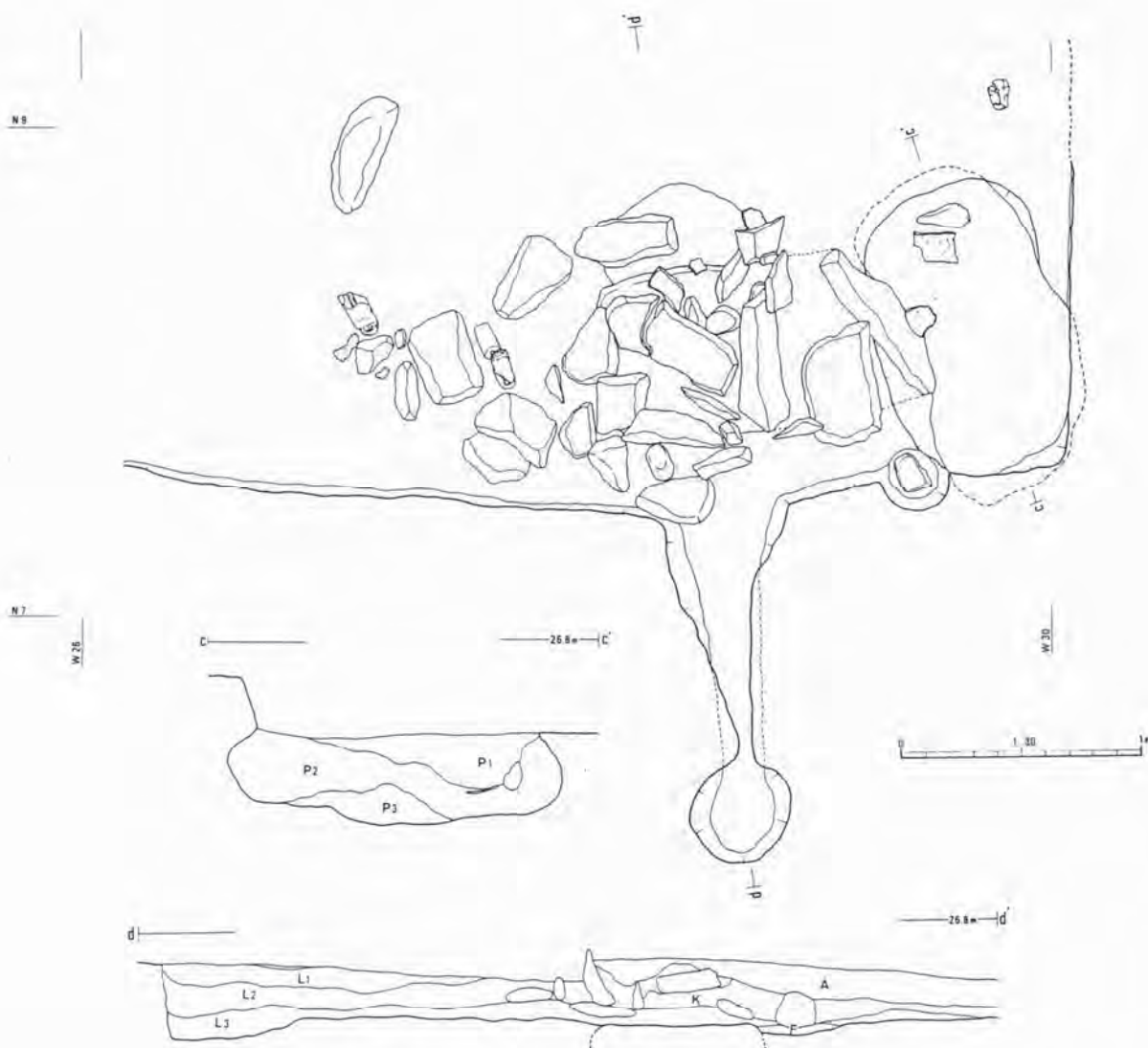
この石組みの東ワキの竖穴すみには土壇があり、この中から土師器甕が出土している(Fig.16-32)。また床面直上からはロクロ使用の小型甕(Fig.16-34)が出土しておりこの土器の中には鉄滓が納められるように入っていた。また石組みの中からも土師器の甕が出土している(Fig.16-35)。

また遺物包含層である黒色土の中からは縄文時代早期末の多くの土器と共にこれらに伴う石器が出土した。磨石の他に多種類の剥片石器も出土している。

燃焼施設

遺物
(Fig.16)

遺物包含層
(Fig.17-21)



HH03燃焼施設

Fig.14

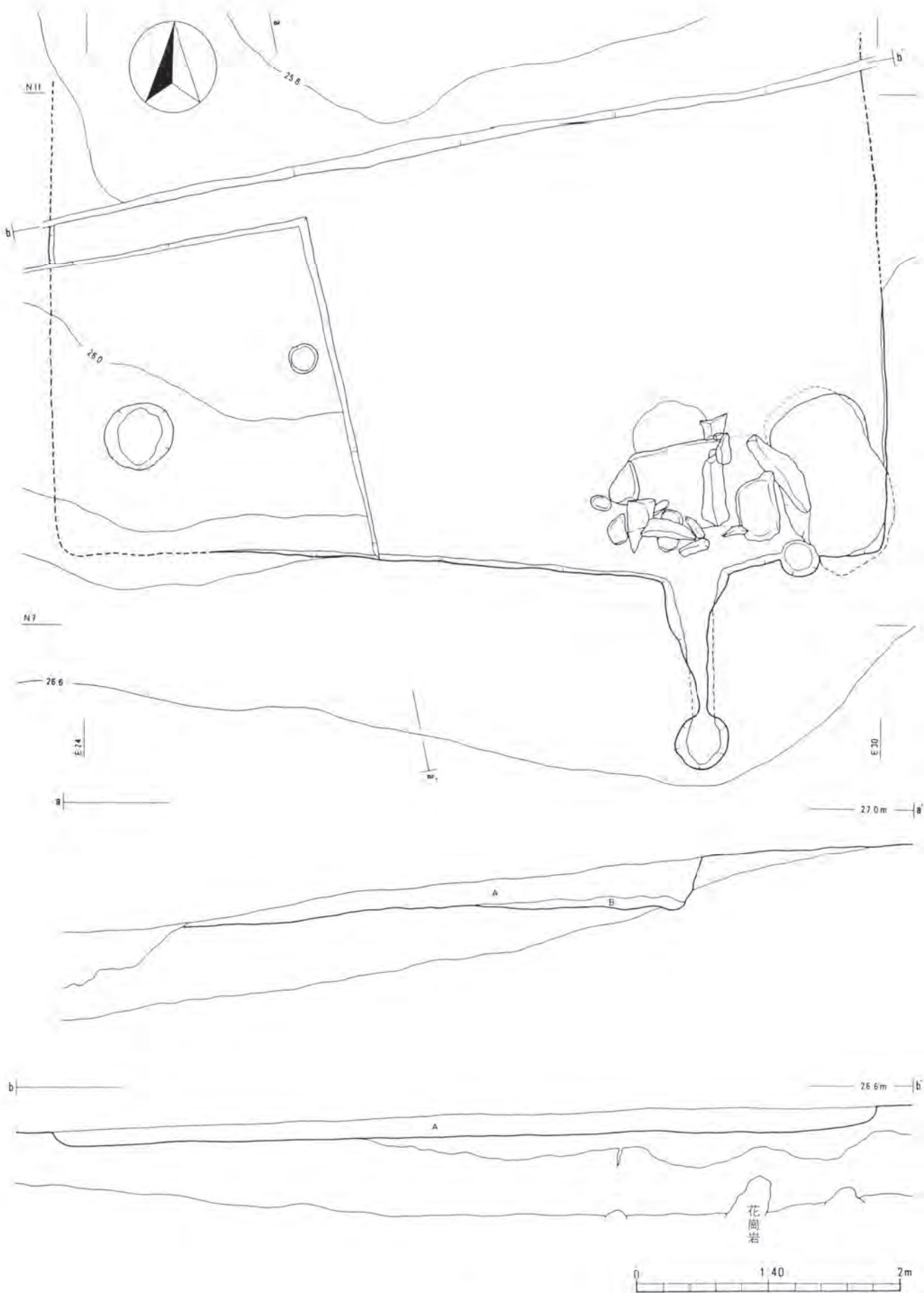
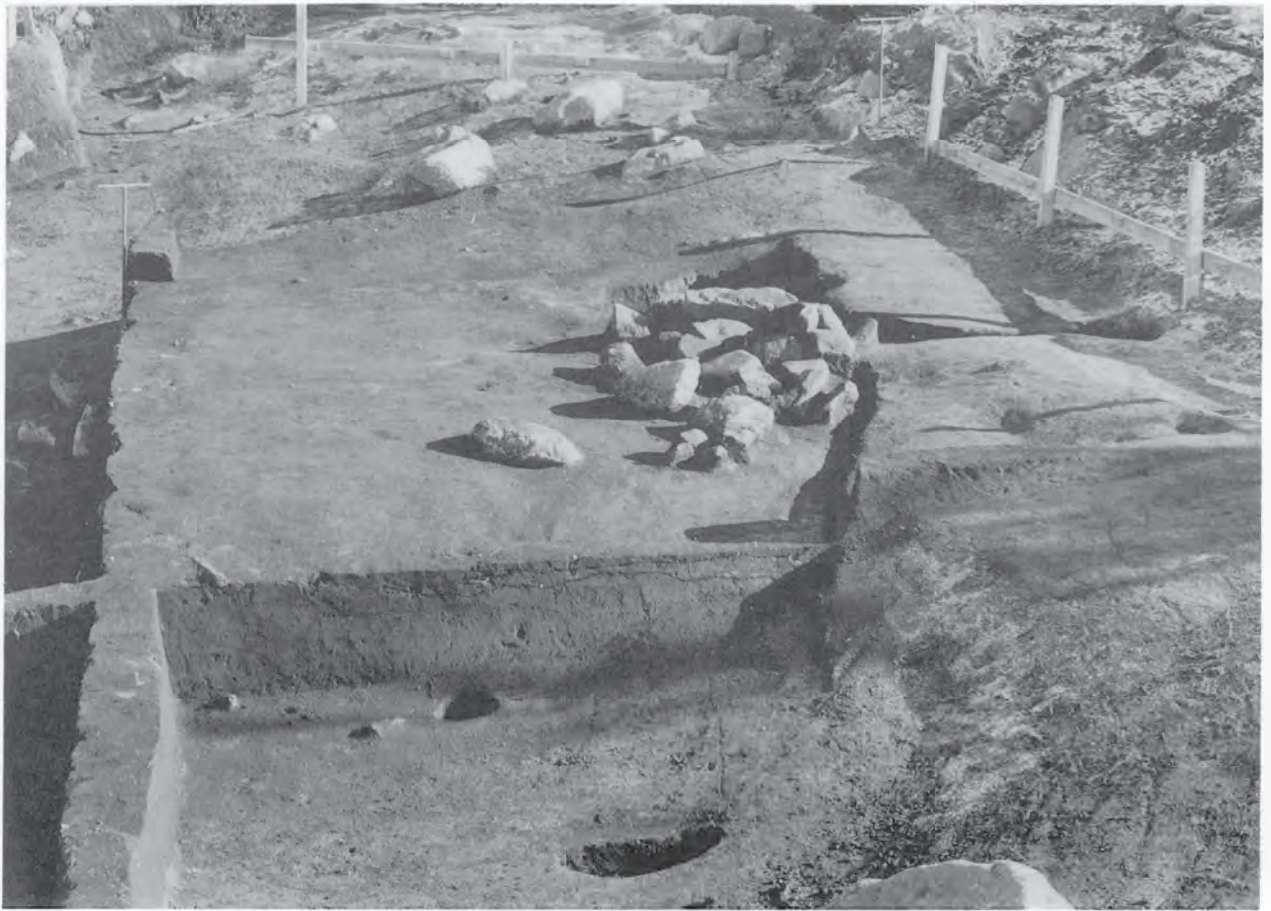


Fig. 15

HH03



HH03 (西より)

Photo. 26



HH03石組み

Photo. 27



Photo. 28

HH03 (東より)



Photo. 29

HH03石組み



HH03石組み堆積土

Photo. 30



HH03石組み崩壊状況

Photo. 31



Photo. 32

HH03石組み

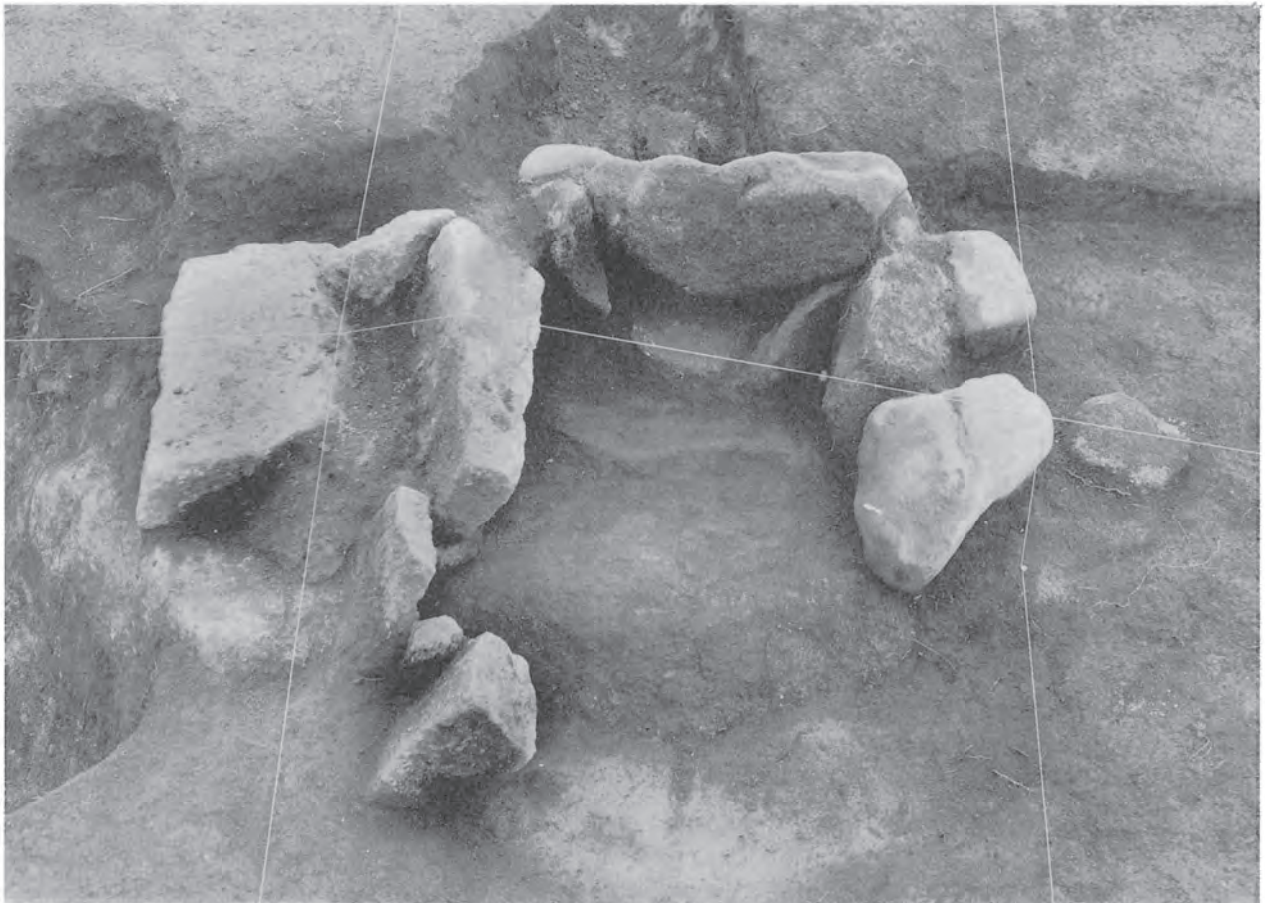


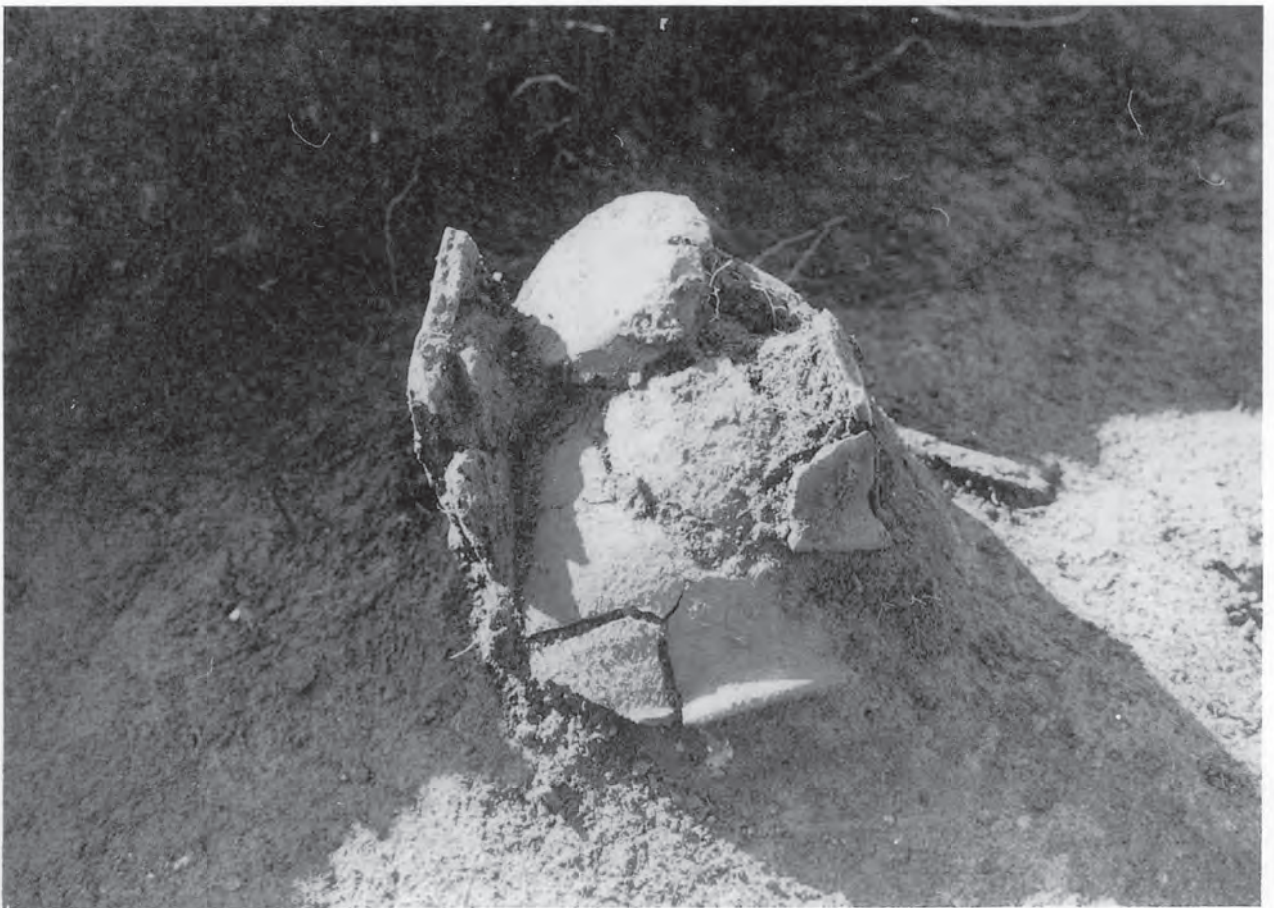
Photo. 33

HH03石組み



HH03フイゴ羽口出土状況

Photo. 34



HH03遺物出土状況

Photo. 35

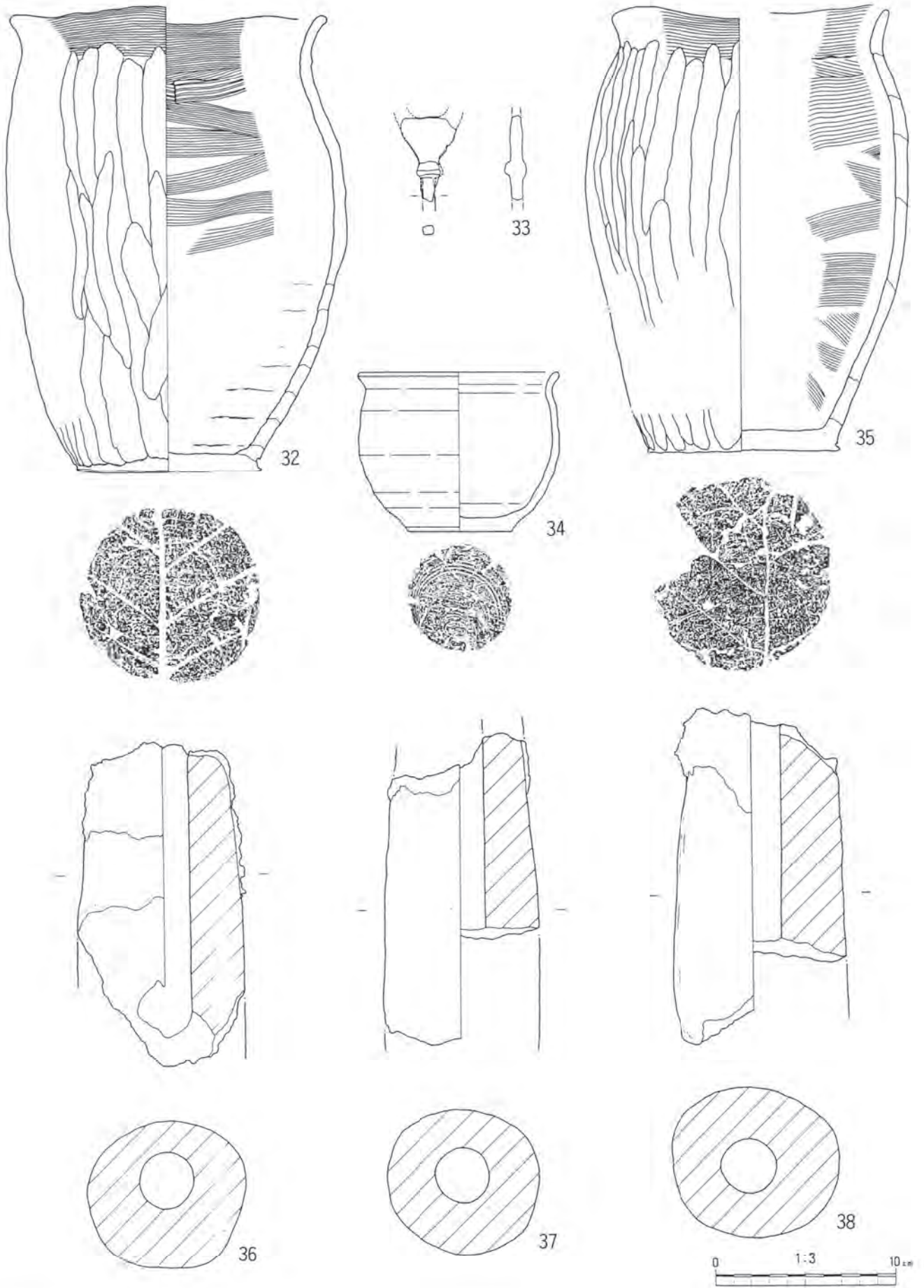
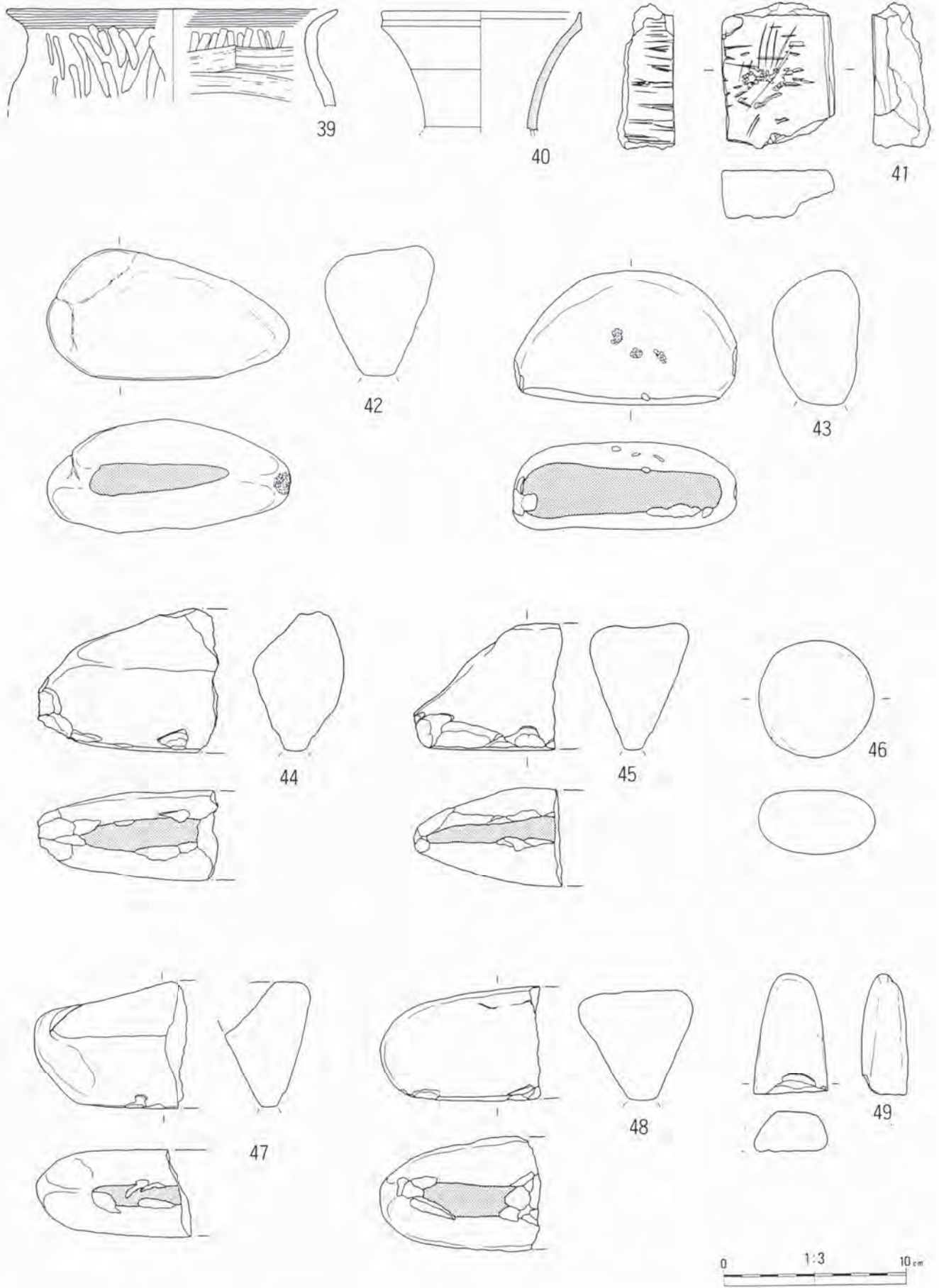


Fig. 16

HH03出土遺物



HH03出土遺物・包含層遺物

Fig. 17



Fig. 18

包含層出土石器



包含層出土石器

Fig. 19

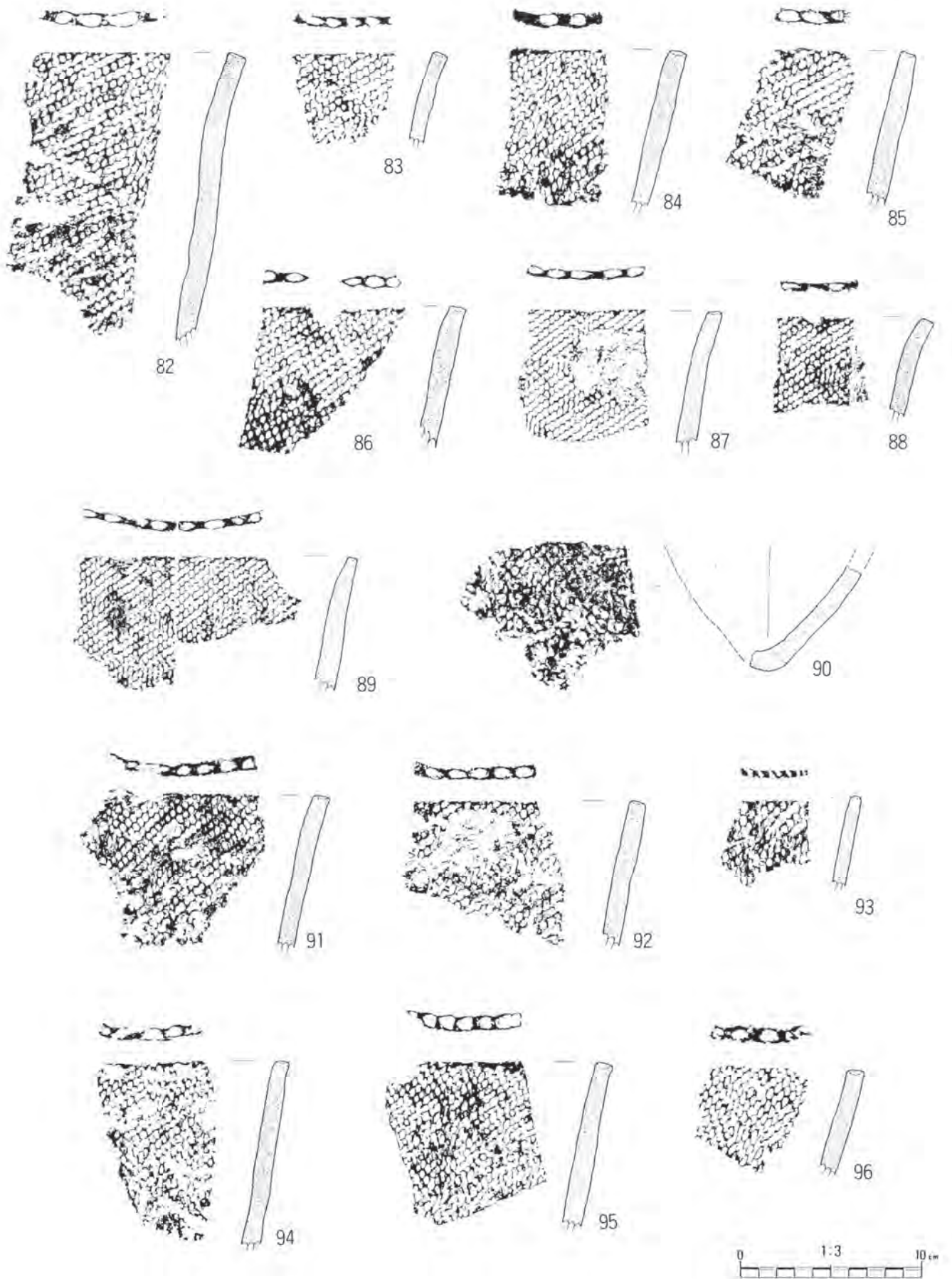


Fig.20

包含層出土土器

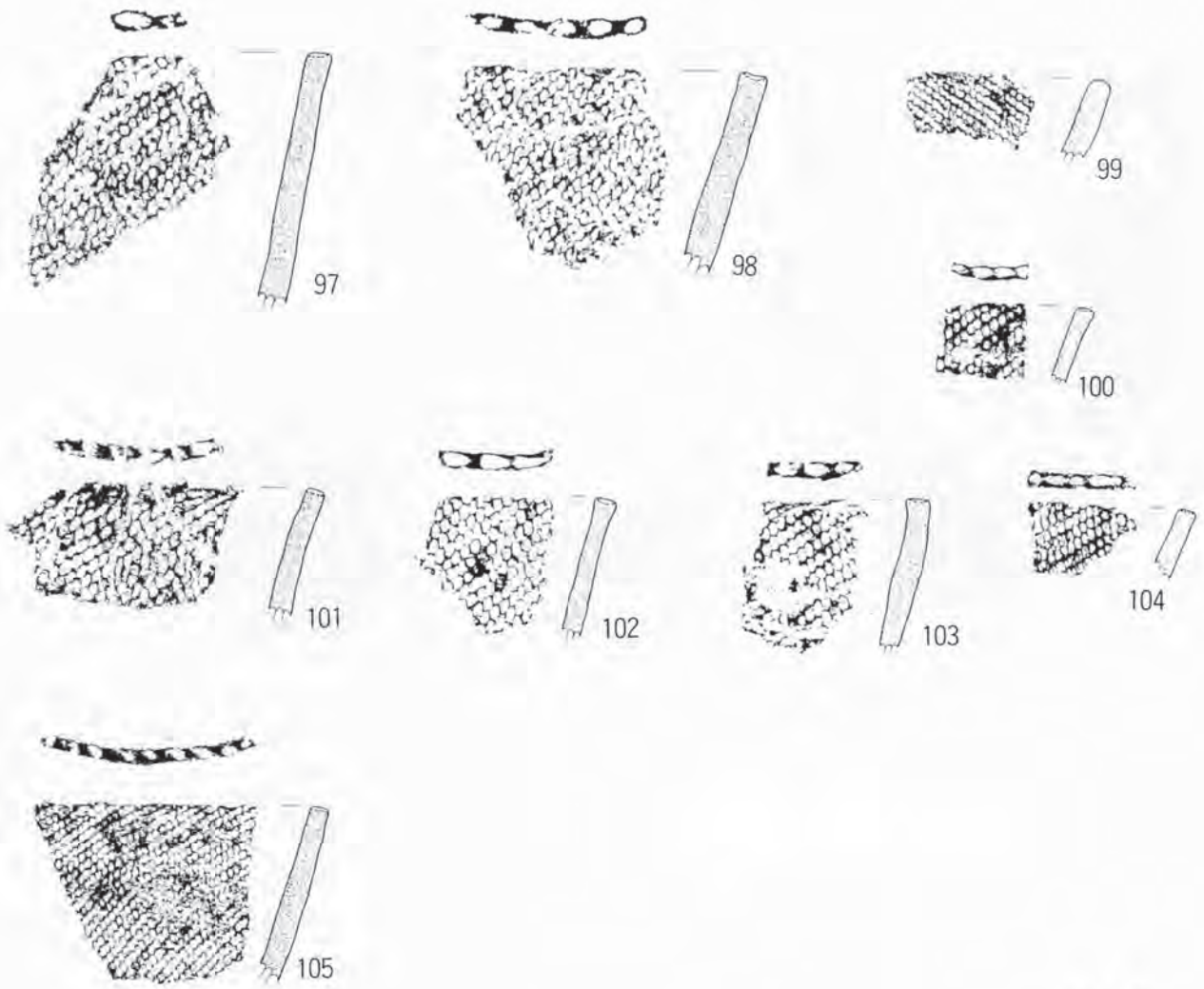


Fig. 21

包含層出土土器



Photo. 36

HH03出土土器



Photo. 37

HH03出土羽口



HH03出土遺物

Photo. 38



包含層出土土器

Photo. 39



Photo. 40

包含層出土石器



Photo. 41

包含層出土石器

2. 第2次調査の遺構と遺物

(1) A地区

A地区は尾根を隔ててB地区と隣接する地区で、北に向ってゆるやかに下る斜面となっている。調査区の南寄りの部分では表土直下が黄褐色土となっているが、北へ下るにしたがって黄褐色土の上に黒色土が堆積しており、調査区北端のN28ラインでは約30cmほどの厚さで黒色土が見られる。(Fig.22) N28ラインで深掘りしたところⅢ層中からFig.25-120~122の土器が出土した。

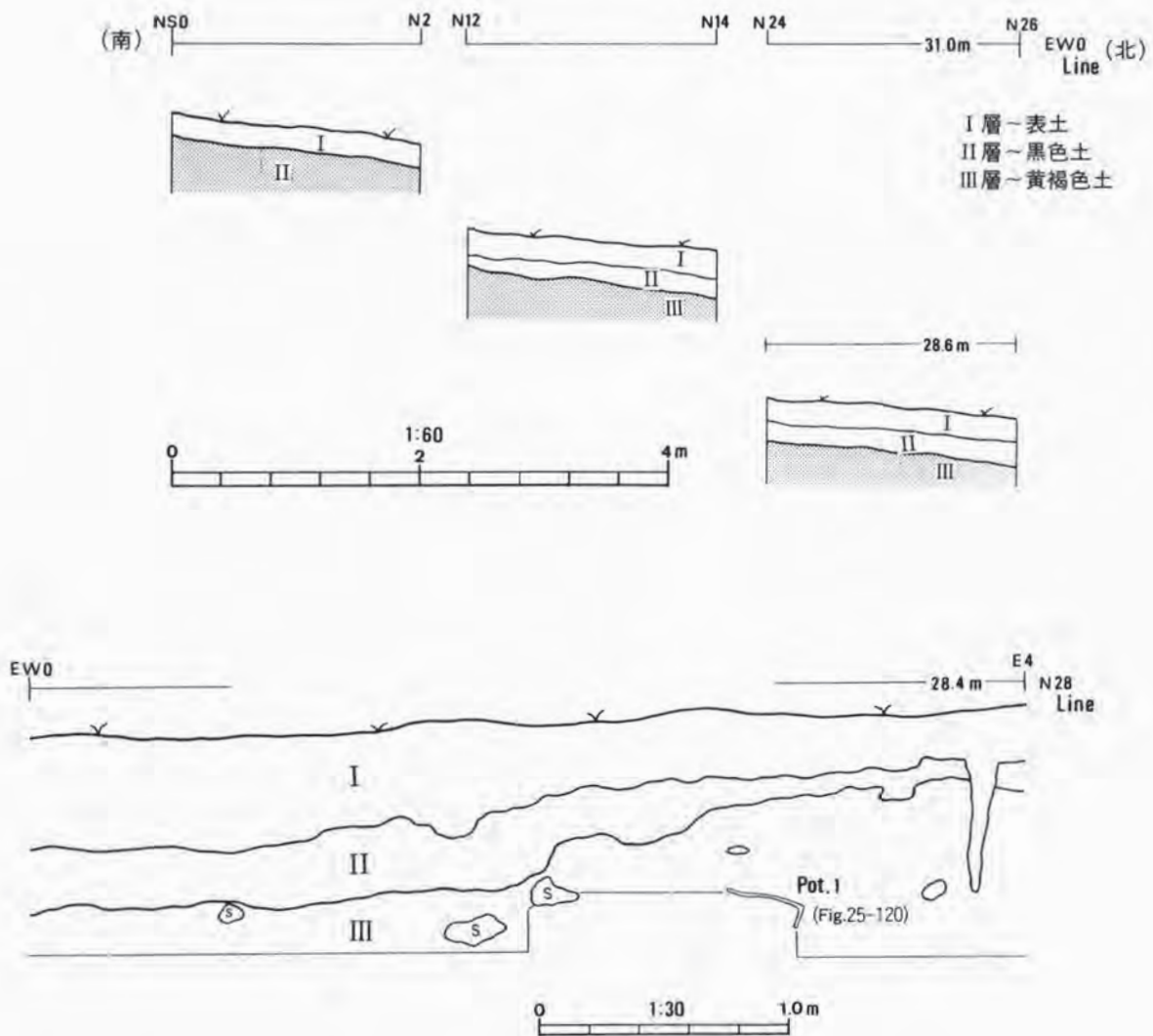
A地区では竖穴1棟と土壇が2基検出されているが、いずれも伴出する遺物がなく時期を特定することはできなかった。(Fig.23)

XP01、XP02はいずれも直径1.2mほどのすりばち状の土壇で、埋土は軟かい土が入っており、XR02は底面を厚さ5cmほどの黄褐色砂質シルトでおおっている。

XP01、XP02

XH06は調査区の中央に検出されたもので、ほぼ3.4m 方形のプランで壁中央とコーナー、そして床面中央に柱穴が9ヶ所あり壁ぎわには三方に周溝がめぐっている。柱はほとんどが直立しており、P₁、P₄がわずかに内傾している。床面には焼土等の生活痕跡は見られなかった。

XH06



A地区土層堆積状況

Fig. 22

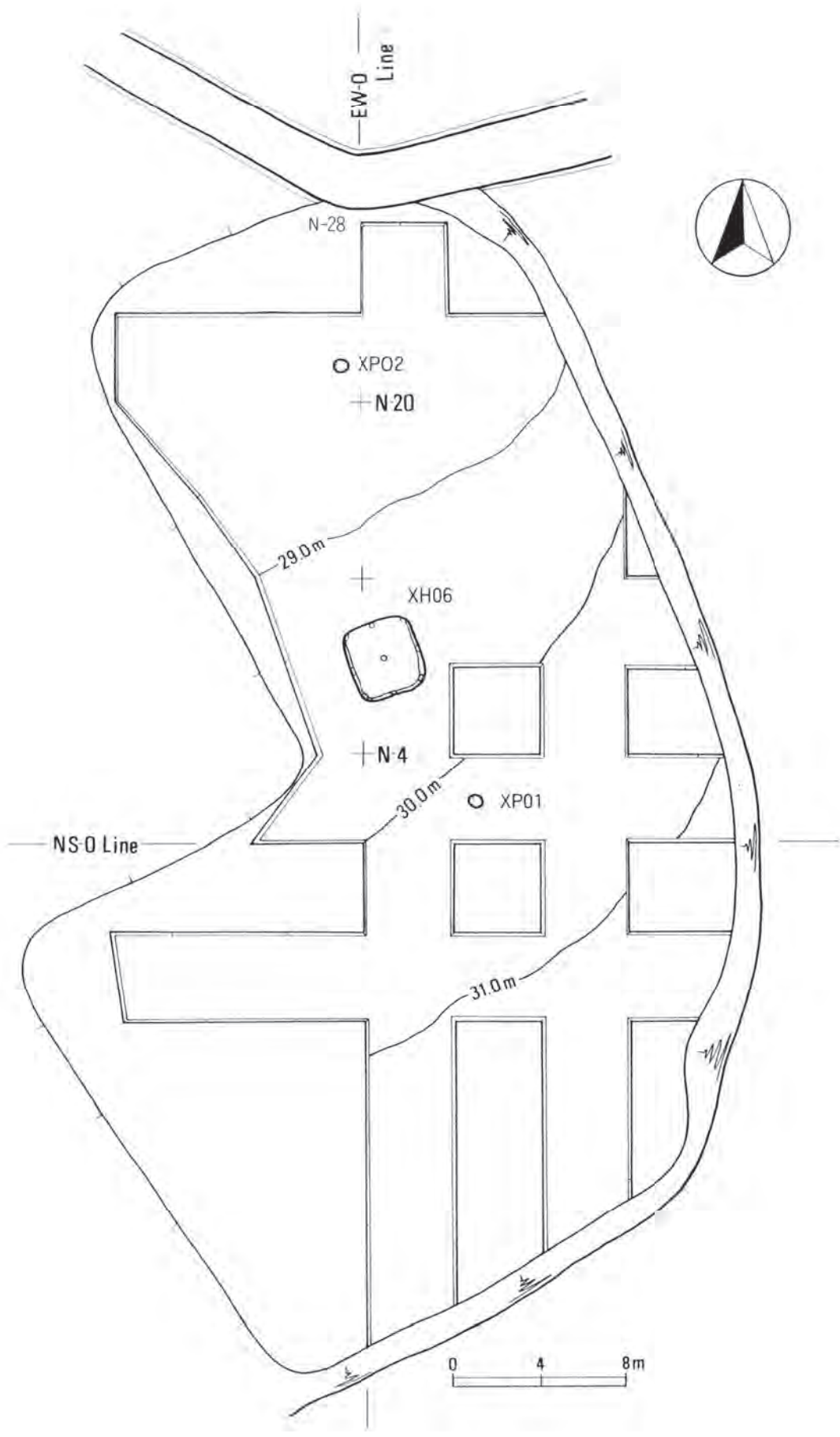


Fig. 23

A 地区検出遺構



A 地区区全景（北より）

Photo. 42



A 地区調査状況

Photo. 43



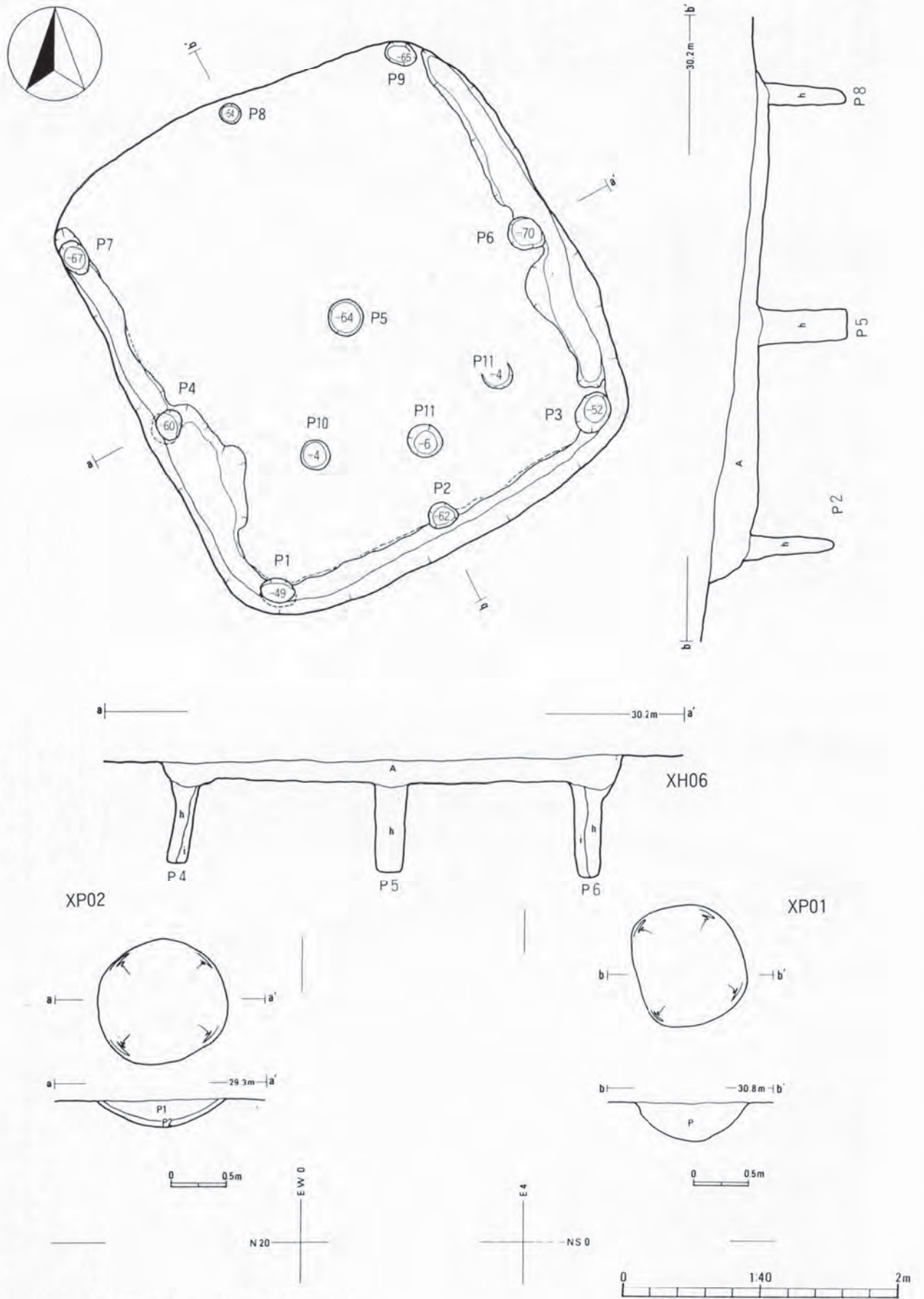
Photo. 44

N-28ライン土層堆積状況



Photo. 45

N-28ライン土器出土状況



XH06

Fig. 24

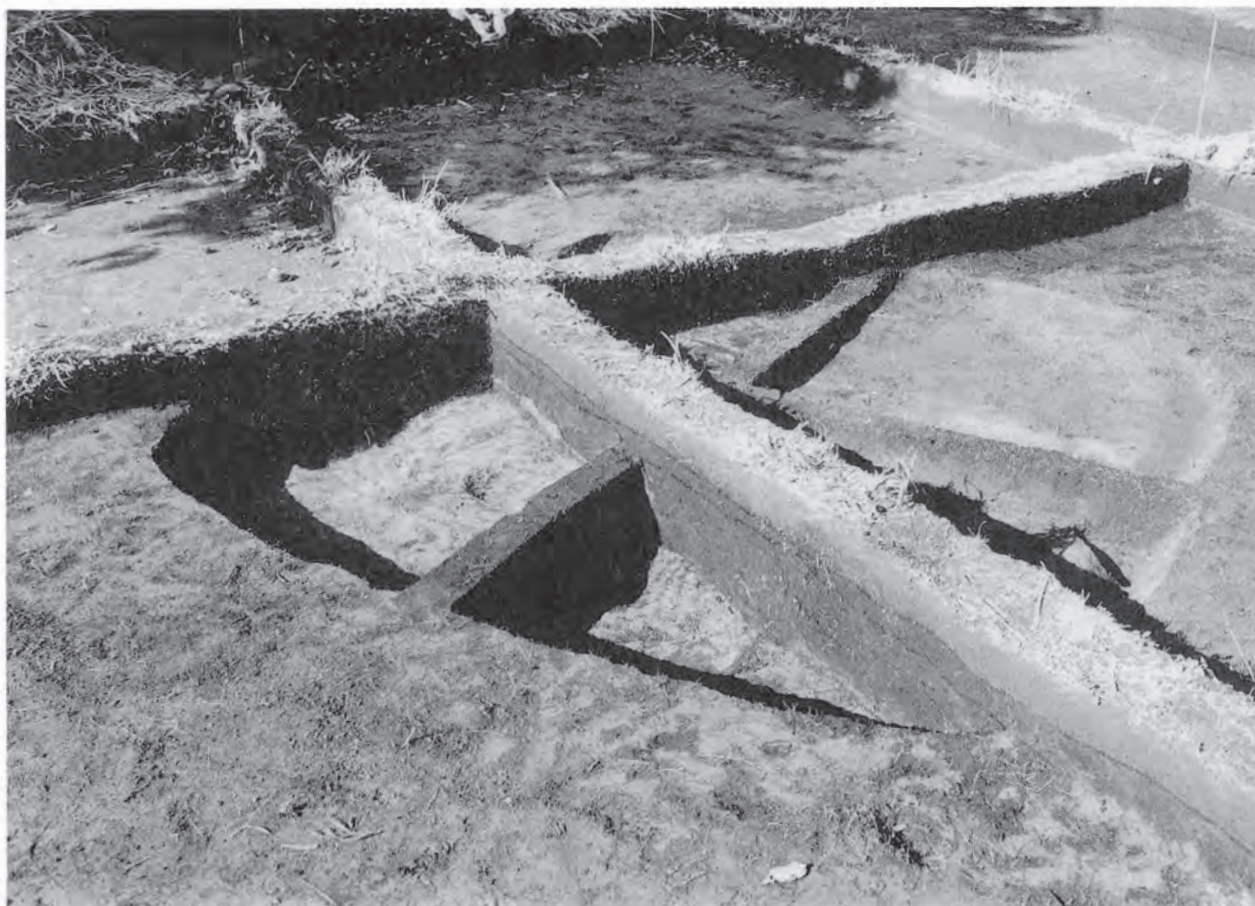


Photo. 46

XH06埋土堆積状況

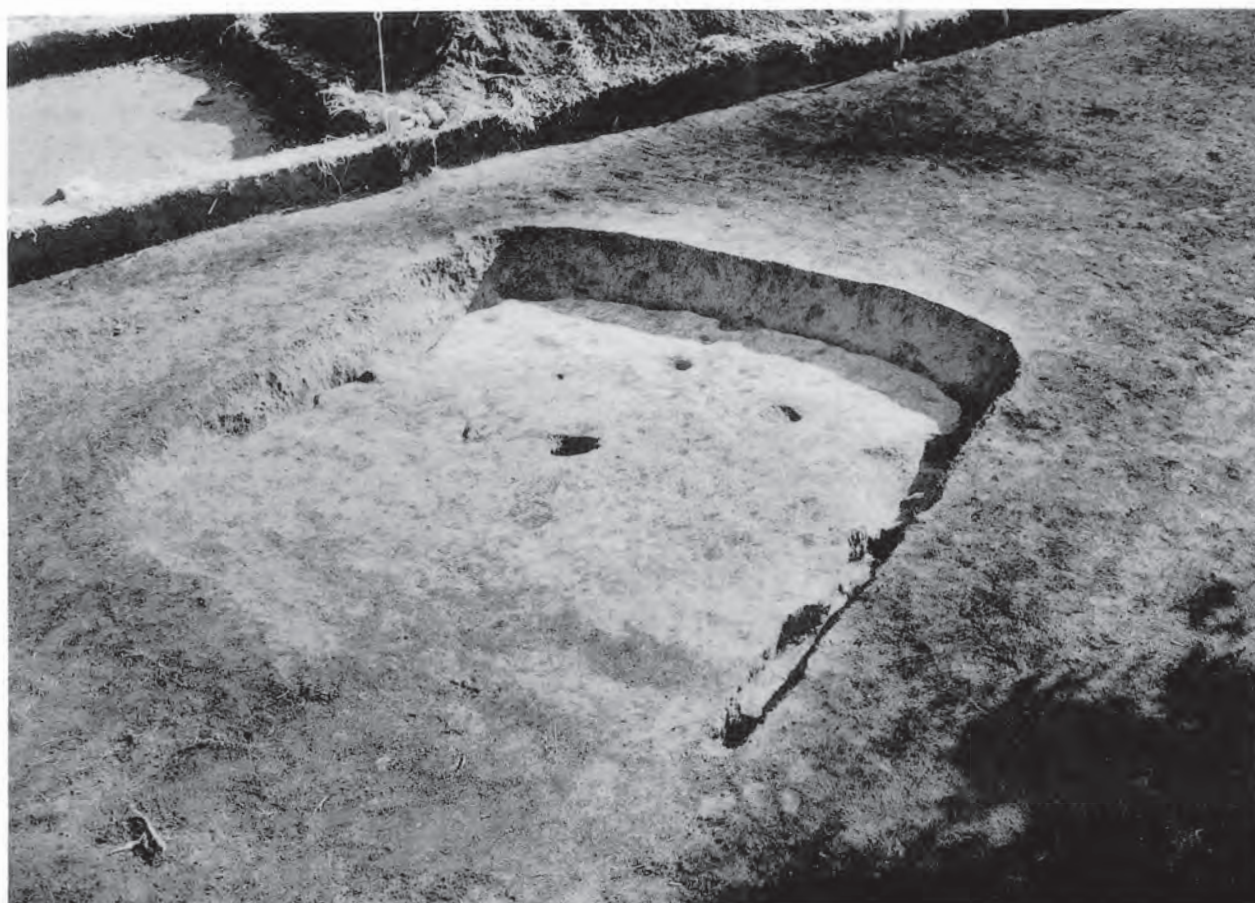


Photo. 47

XH06



XH06 (南東より)

Photo. 48



XH06柱穴断面

Photo. 49

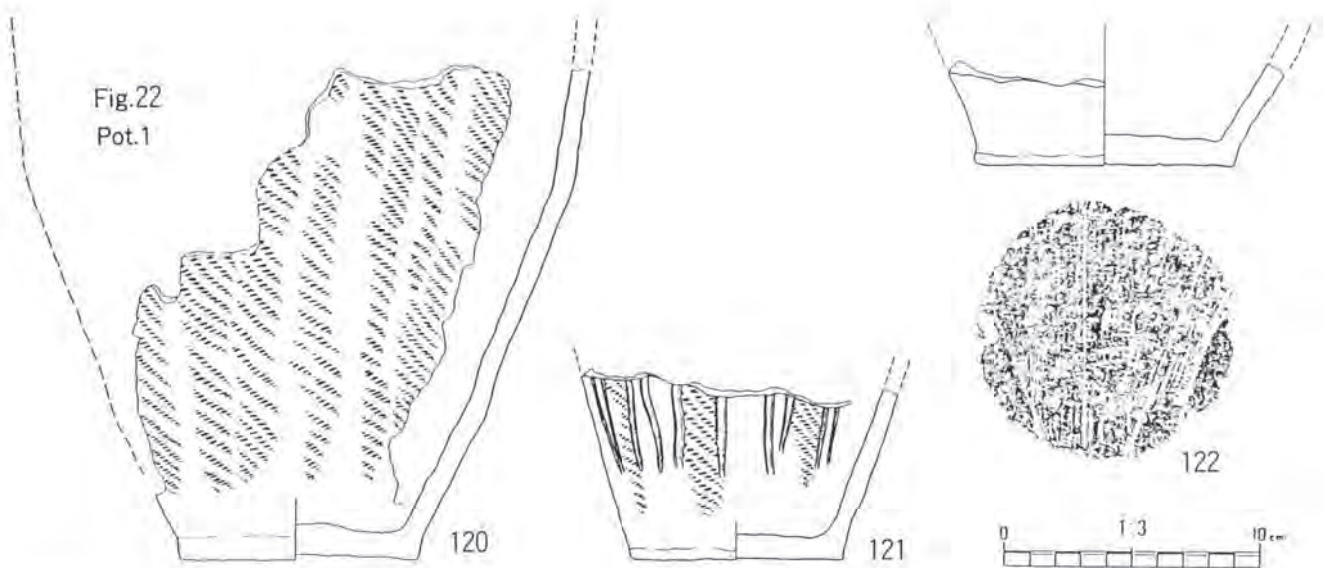
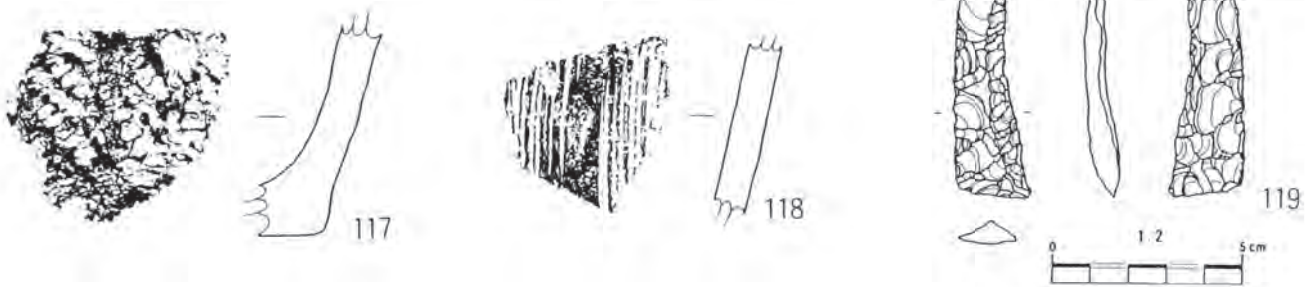
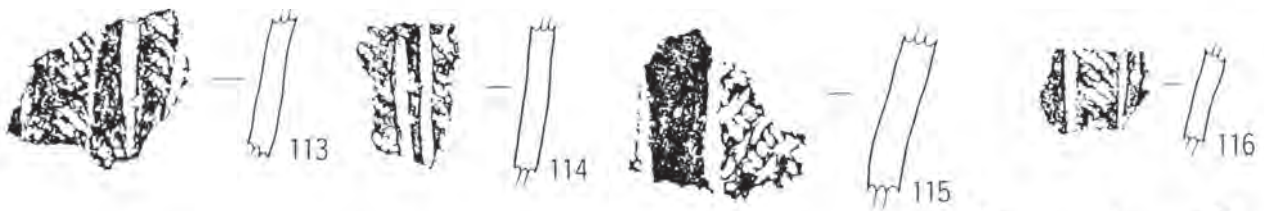
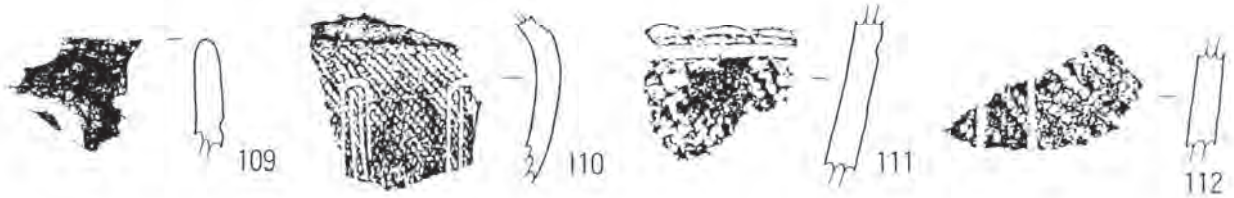


Fig. 25

A 地区出土遗物



A 地区出土遺物

Photo. 50



A 地区出土土器

Photo. 51



A 地区出土土器

Photo. 52

(2) B地区

B地区は赤前小学校用地に接する地区で、第1次調査の際にも遺構の存在が予想される部分として考えていたすぐ続きの地区である。A地区を隔てる尾根を背に北向きに4段の畑が作られており、畑を作る際にかなり大きく切り盛りをしていることが予想された。

Fig.26

調査はまず畑の各段(F-1~F-4)にトレンチを設定し試掘を行い遺構の有無を確かめた。F-2からF-4までの各段では自然地形で黒色土がはいり込んでいる部分もみられたが、黒色土中にも遺物はほとんど含まれず、遺構も見られなかった。ただ最上段のF-1からは、円形と長方形のプラン(HH04, HH05)が検出され、これらの遺構を精査するために本調査に入った。

遺物

Fig.26の上段に示す遺物は試掘調査の際に出土したものである。123は鉄釉のかかった天目茶碗でF-1の表土から出土している。他に淡緑色、緑色の釉薬のかかった陶器が出土している。

また127、128に示す縄文時代の遺物も表土から出土している。

当初予想していた畑を作る際の切り盛りは比較的小規模で、検出された遺構も保存状況が良かった。

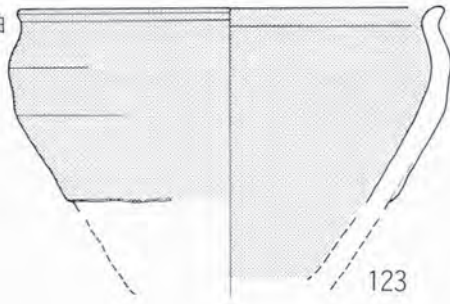
B地区は黒色土の堆積する低地をはさんで第1次調査地区と約150mの距離にあり、同時期存在が確定できればこれらの5棟を含めたひとつの村落のエリアを想定することができるであろう。なおB地区で精査されたHH04とHH05から出土した遺物(床面と埋土下位)が接合しており、これら2棟はかなり近接した時期に存在していたことが言える。



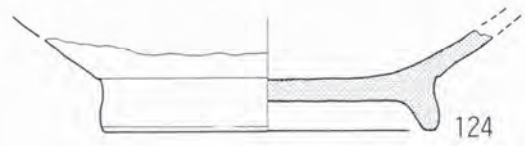
Photo. 53

B地区遠景

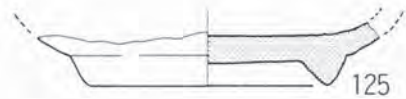
鉄釉



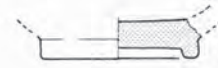
123



124



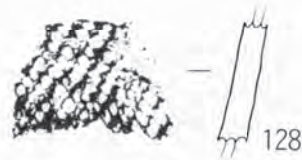
125



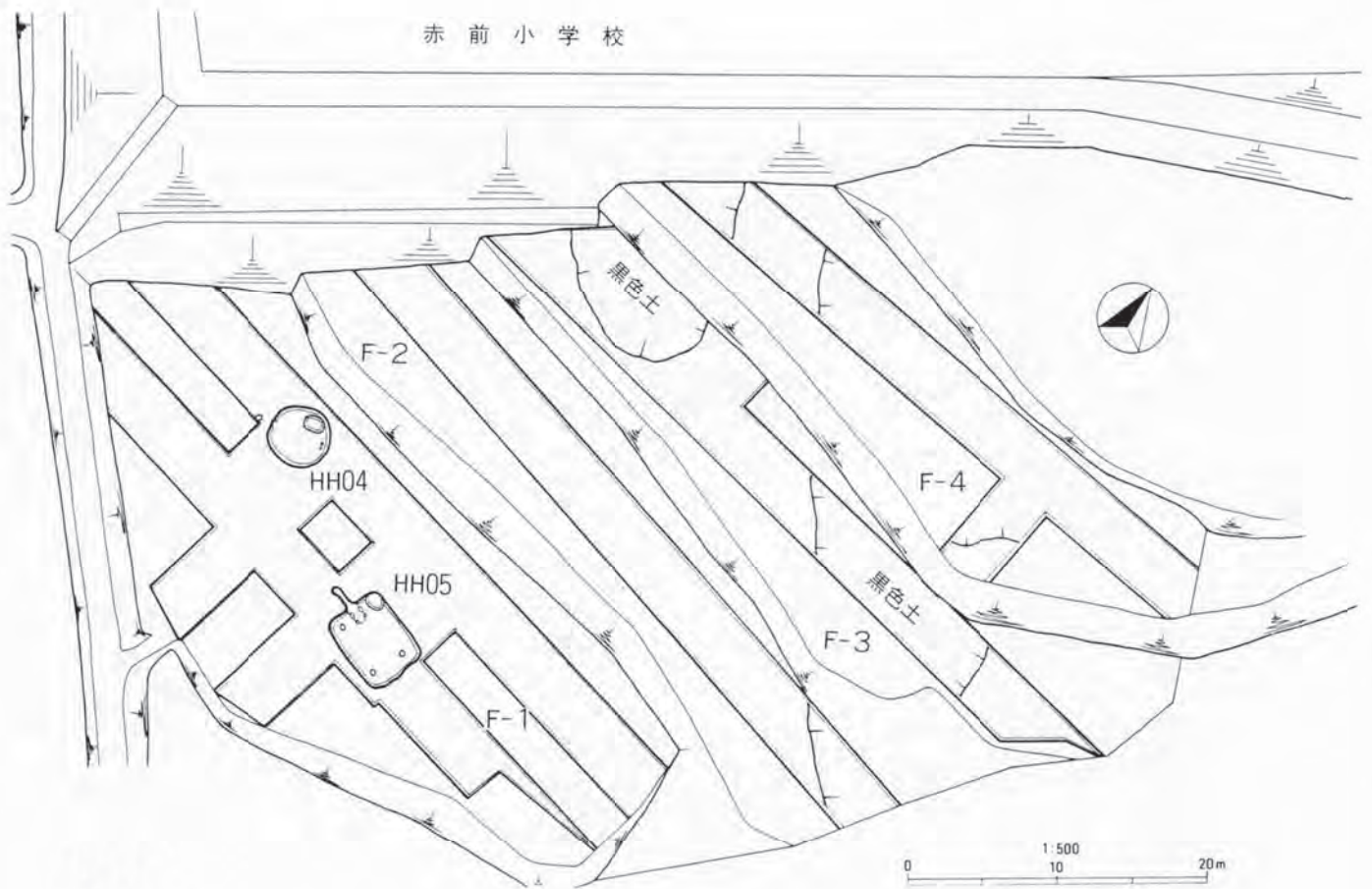
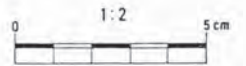
126



127



128



B地区トレンチ設定図とトレンチ出土遺物

Fig. 26

(3) HH04 竪穴住居跡

遺構

HH04はF-Iトレンチの西寄りに検出された竪穴住居跡で、西壁にカマドをもち東西3.6m、南北3.4mのホタテ貝型のプランを呈する。床面には深さ40cm、1.3×1.0mの長方形の土壇が伴っている。検出面から床面までの深さが約70cmと比較的深い竪穴である。

ピットはカマドの反対側の東壁下にふたつならんで見られた。竪穴の出入り昇降の施設に関連するピットではないかと考えられる。

床面及び土壇からは十数点の円礫が出土しており、特にカマドの右手ワキには10点ほどの礫がまとまって出土している。

埋土は自然堆積で、土壇中の遺物はE層中からの出土である。

カマドは約1mの煙道をもち火鏡面も比較的大きいが燃焼部のソデなどの施設がみられない。また床面の一部に焼土が見られた。

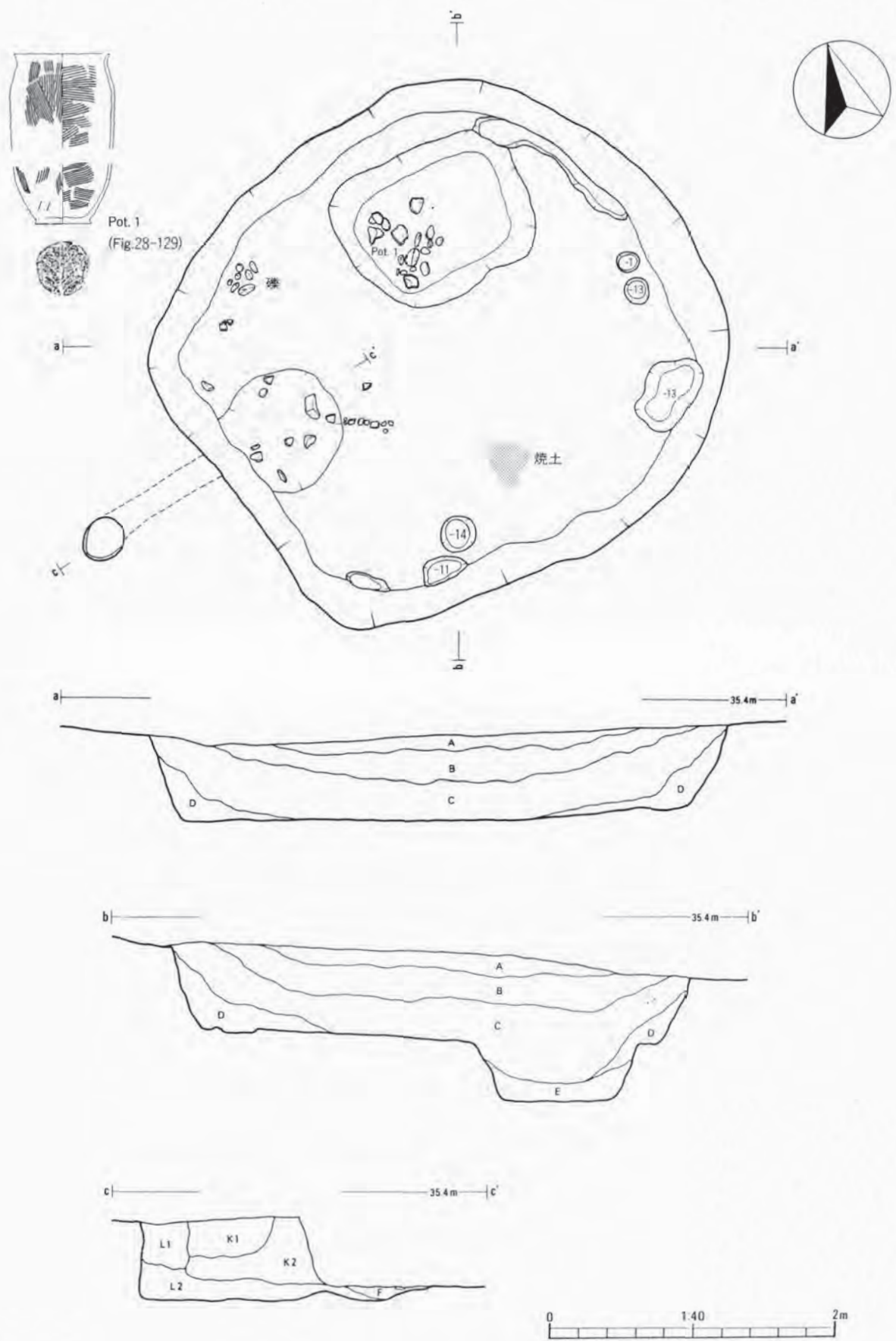
遺物

竪穴からはFig.28に示す遺物が出土している。134の砥石は129の土器と一っしょに土壇中から出土したもので、第1次調査で調査されたHH01からも同様の砥石が出土している。その他埋土中から縄文土器、須恵器が出土している。135はアイゴ羽口破片で推定外径6.2cm、孔径2.4cmを計る。



Photo. 54

HH04 竪穴住居跡



HH04 竖穴住居跡

Fig. 27



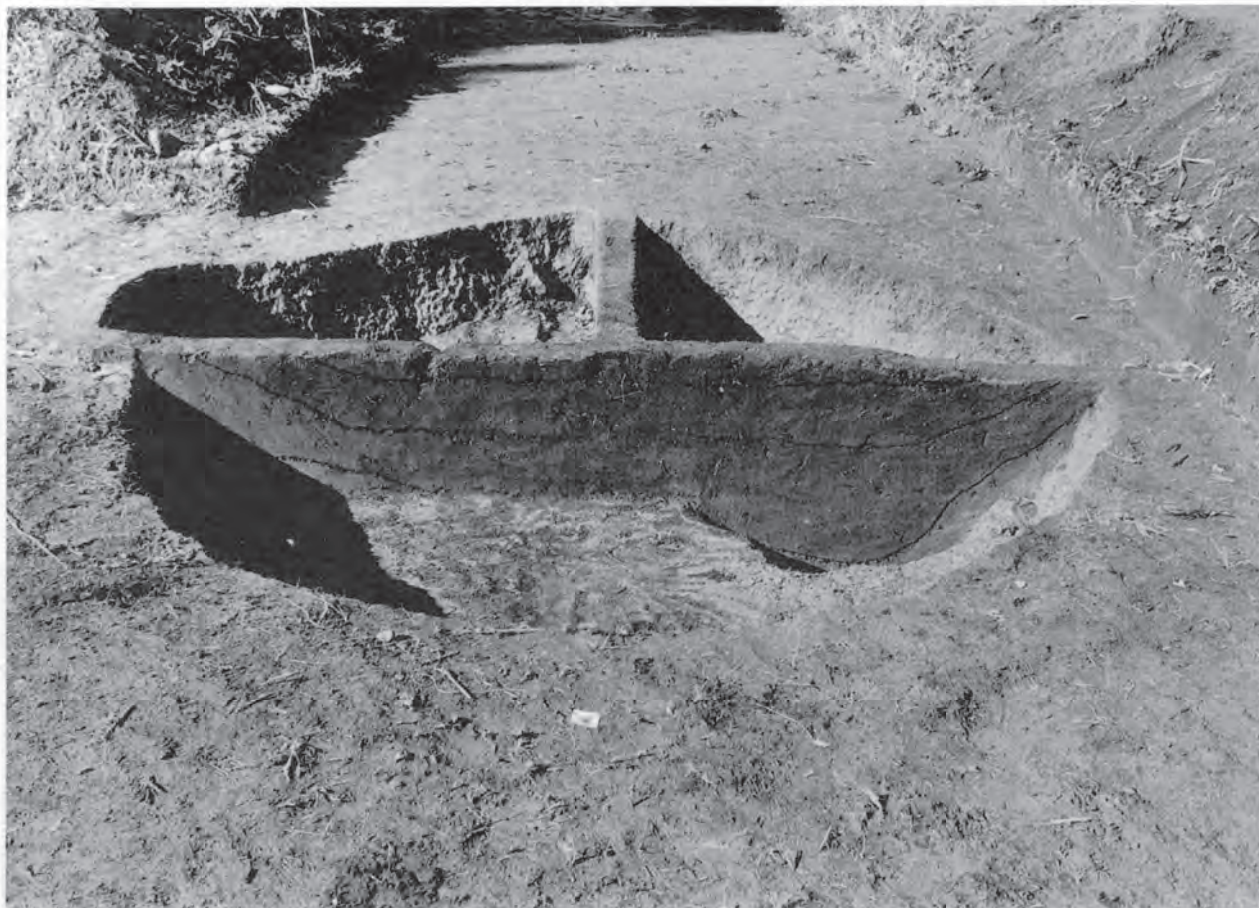
Photo. 55

HH04豎穴住居跡



Photo. 56

HH04土壇内遺物出土状況



HH04埋土堆積状況

Photo. 57



HH04カマド断面

Photo. 58

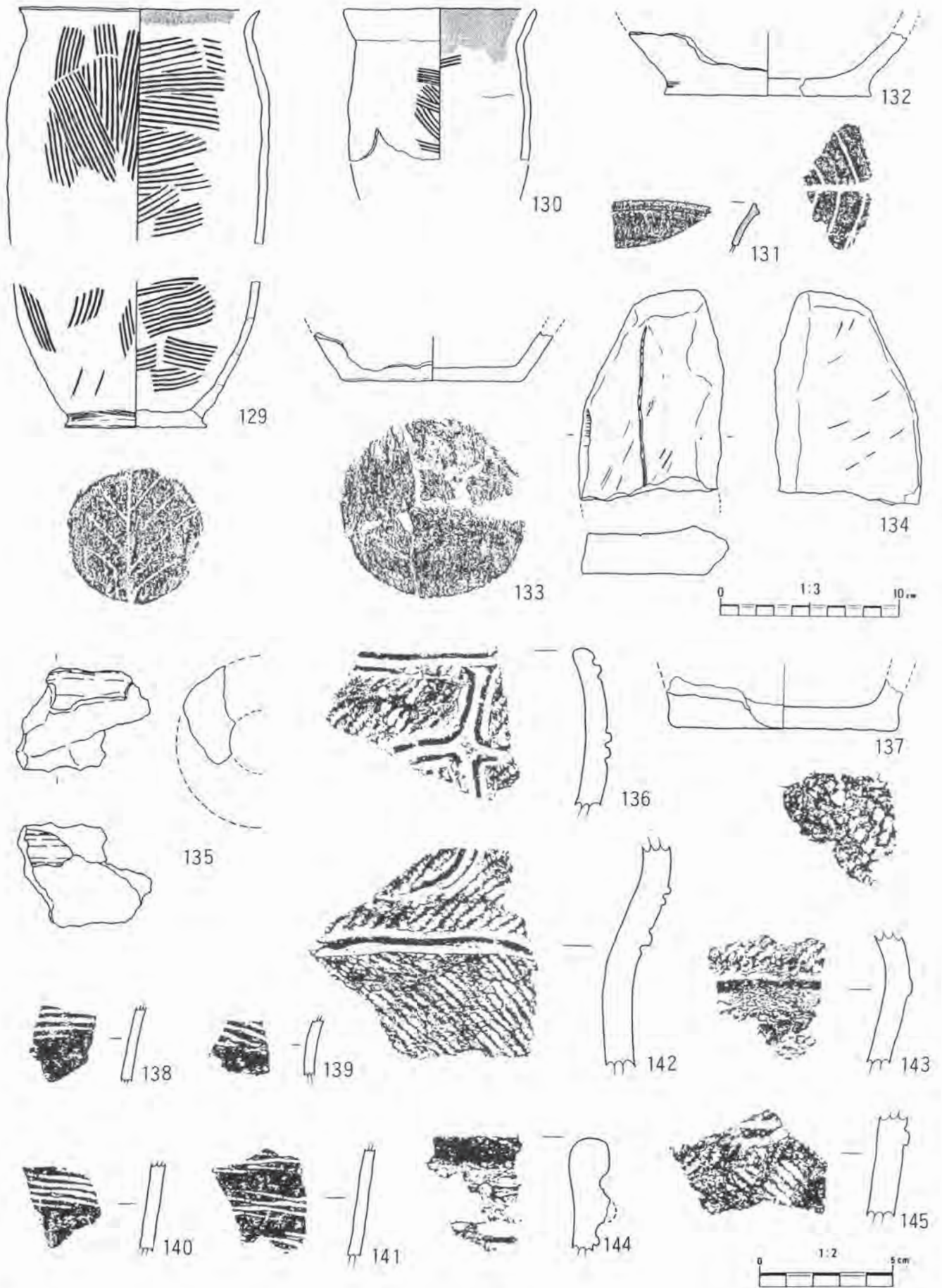
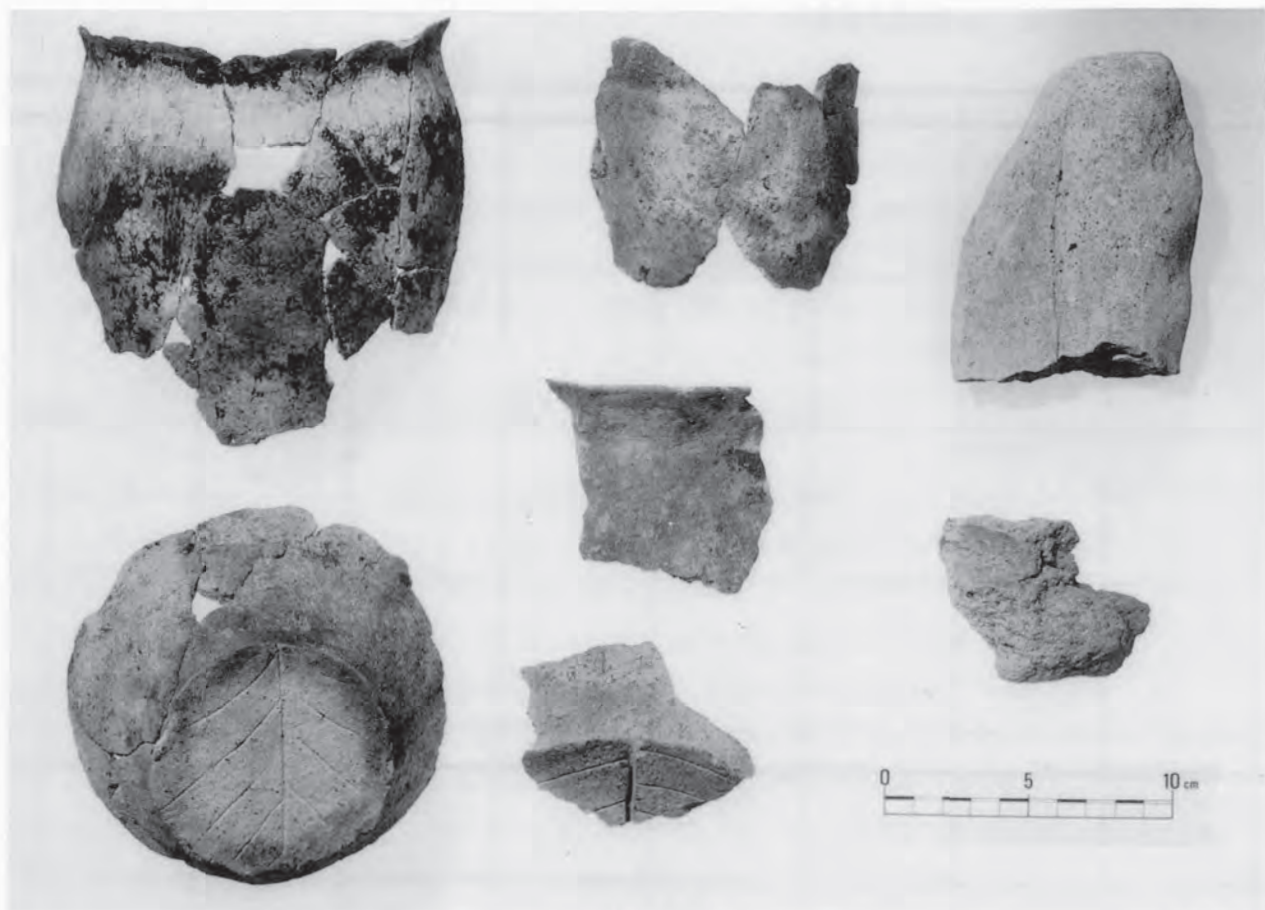


Fig. 28

HH04出土遺物



HH04出土遺物

Photo. 59



HH04出土遺物

Photo. 60

(4) HH05 竪穴住居跡

遺構

HH04の東約10mの地点に検出された竪穴住居跡で、東西5.3m・南北4.3mの長方形のプランである。西壁中央にカマド、そして北西コーナーには深さ25cm、80×90cmの土壇を持つ。埋土は自然堆積で褐色土層（A、B層）と黄褐色土層（C、D層）からなる。ピットは図中P₁、P₂、P₃が、支柱穴になると考えられるが、これらはいずれも深さ10cmと残い。

カマドは約1.7mの煙道を持ち、燃烧部はソデに使われていたと思われる石を抜いた跡が見られた。遺物はほとんどがカマド付近からの出土である。

北西コーナーの土壇では底面から約10cmのP₂層の上面にFig.30-147の小型鉢と150の須恵器底部が出土している。

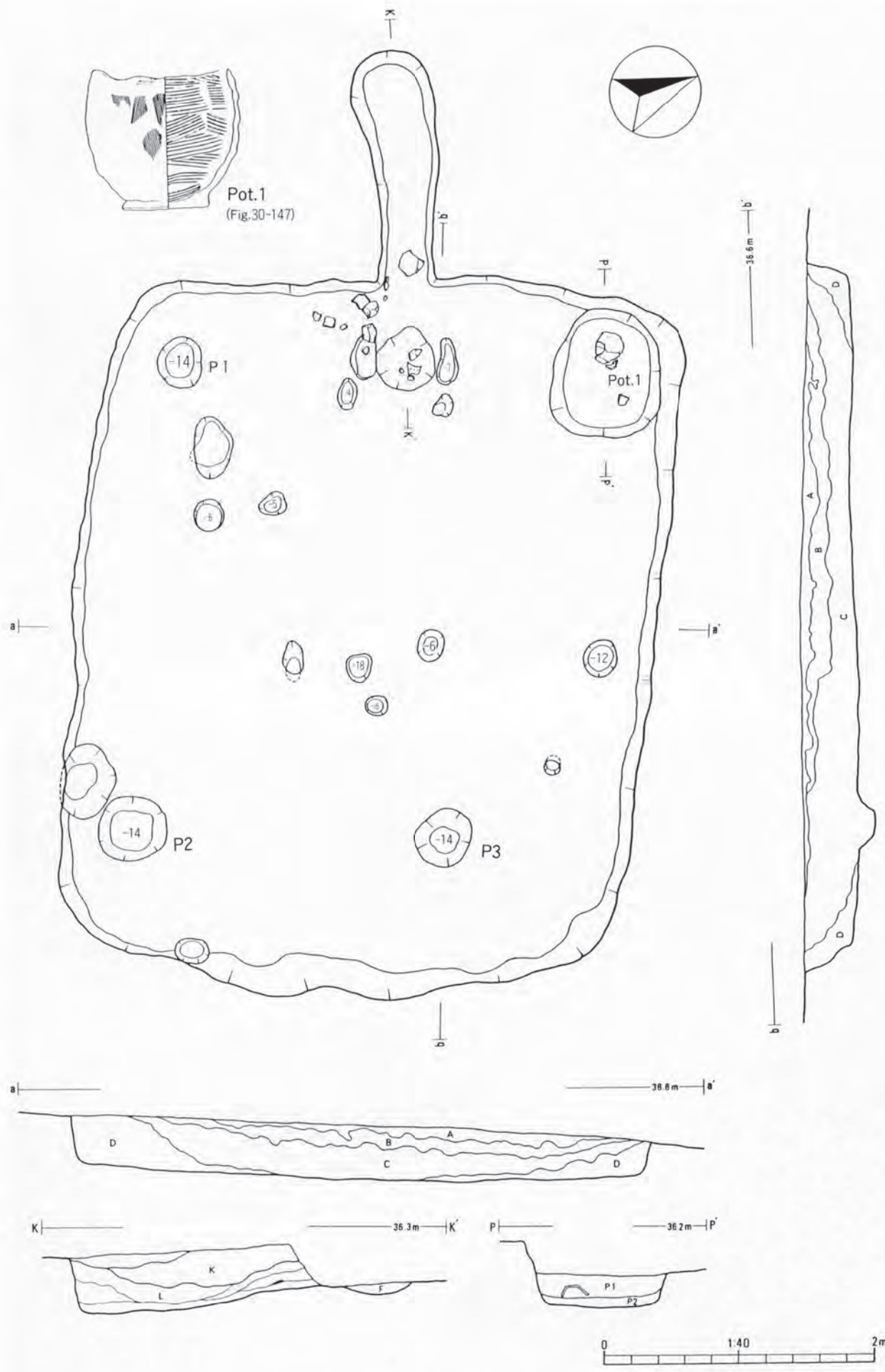
遺物

Fig.30,31に出土遺物を示す。150の須恵器低部は外面縄目のタタキ、内面はハケ目が見られ一部に製作時の凹凸をそのまま残している。埋土からはフイゴ羽口の破片が数点出土している。151は推定の外径7cm、孔径3cmほどの羽口先端部の破片である。また154は太さ7cmほどの円柱状の土製品であるが、割れた面に金属が凝着したと視られる部分がある。どのような用途に使われたものかは不明であるが、このような金属の凝着ができるのはかなり限られた条件であったと考えられる。155～162に示す鉄製品も出土している。155は最も厚いところで10mm、巾12mmほどの細い板状の鉄製品で、埋土最上層からの出土である。また160～162に示す鉄製品は薄い板状の鉄をまるめ一方をしばった漏斗状にしている。162には一方に孔がみられる。棒状の何らかの先端にソケット状にはめこみ固定したものではないかと考えられる。



Photo. 61

HH05 竪穴住居跡



HH05豎穴住居跡

Fig. 29



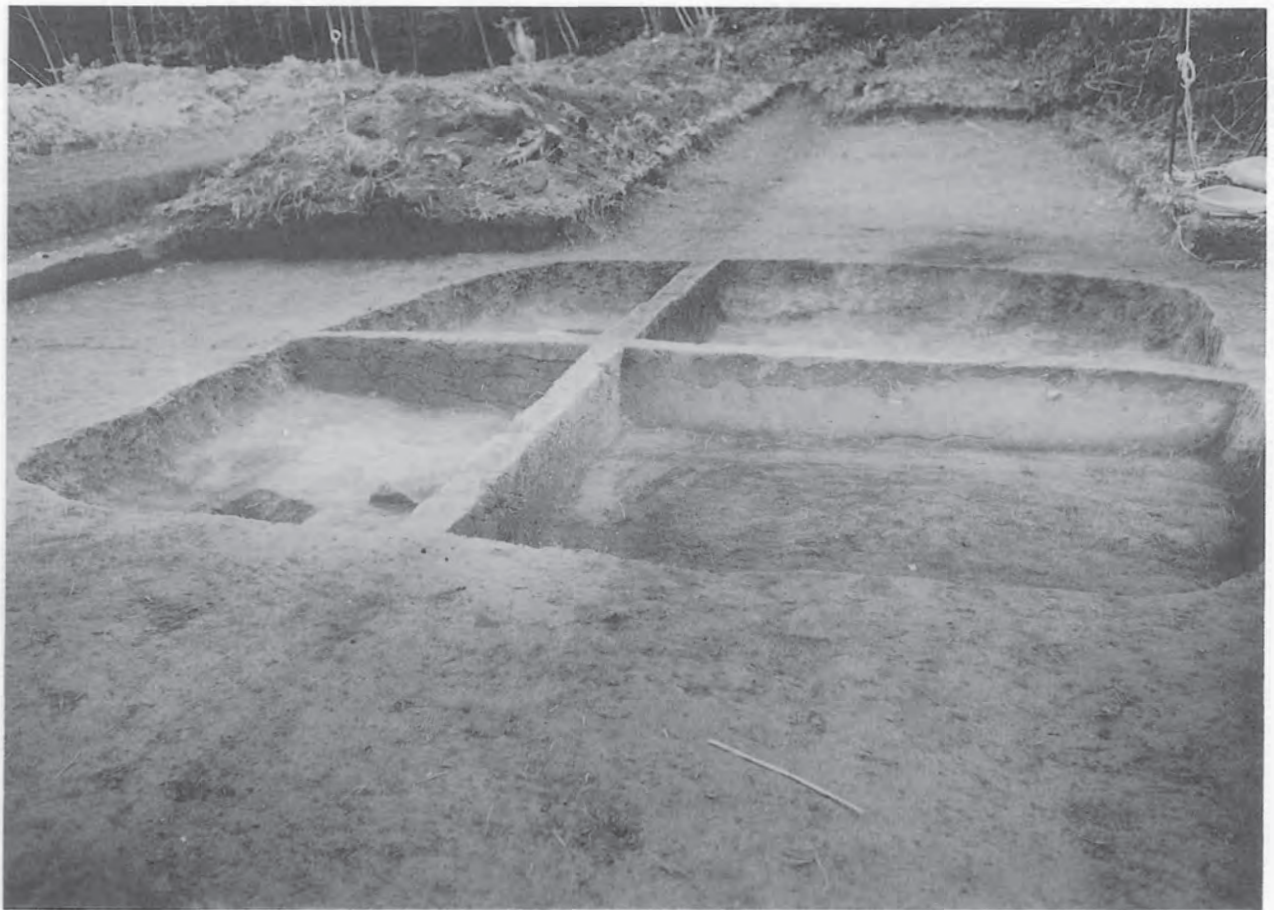
Photo. 62

HH05カマド



Photo. 63

HH05土壇出土遺物



HH05埋土堆積状況

Photo. 64



遺跡見学会

Photo. 65

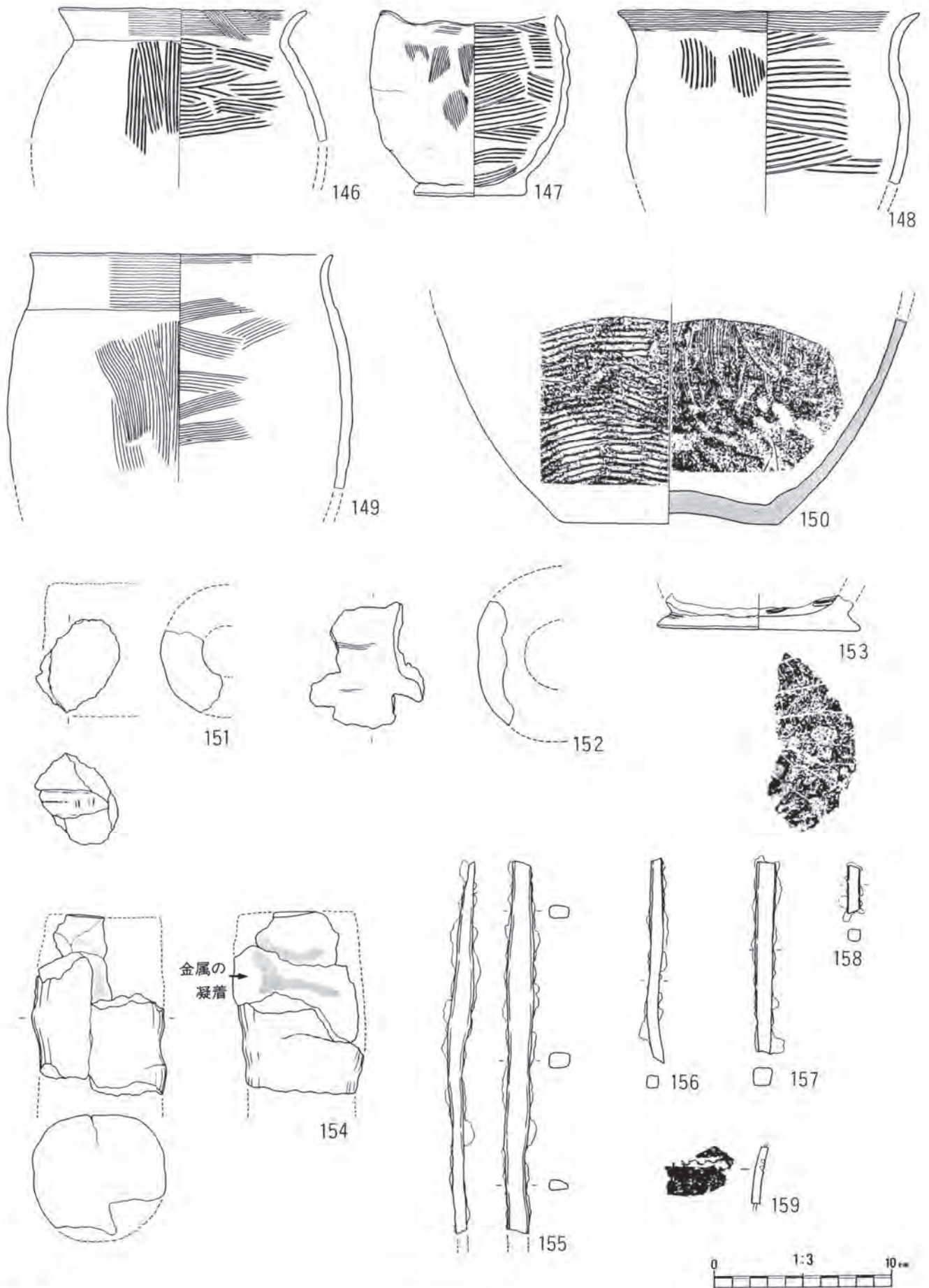
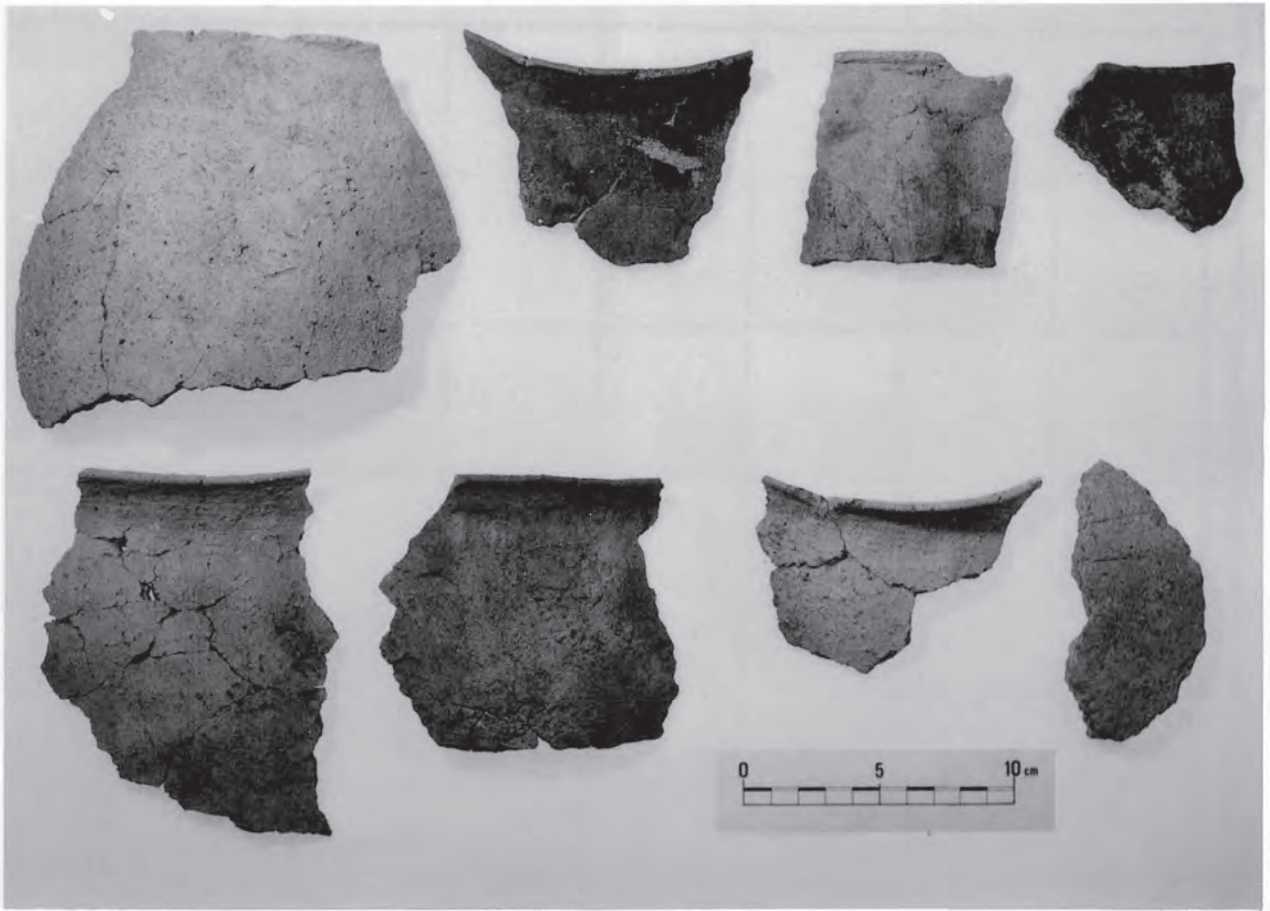


Fig. 30

HH05出土遺物



HH05出土遺物

Photo. 66



HH05出土遺物

Photo. 67-a



HH05出土遺物

Photo. 67-b



Photo. 68-a

HH05出土遺物



Photo. 68-b

HH05出土遺物

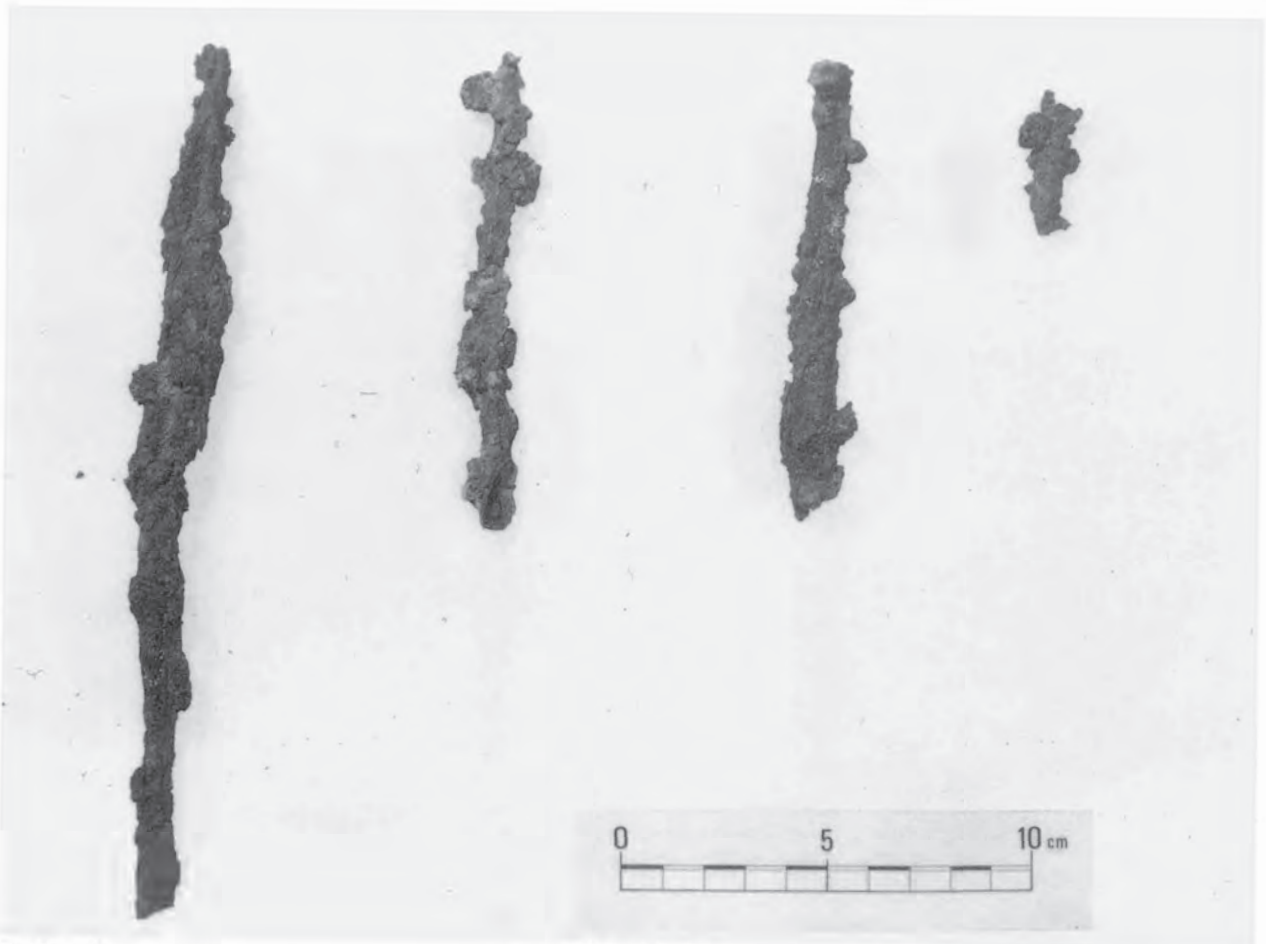


Photo. 69

HH05出土鉄製品



Photo. 70-a

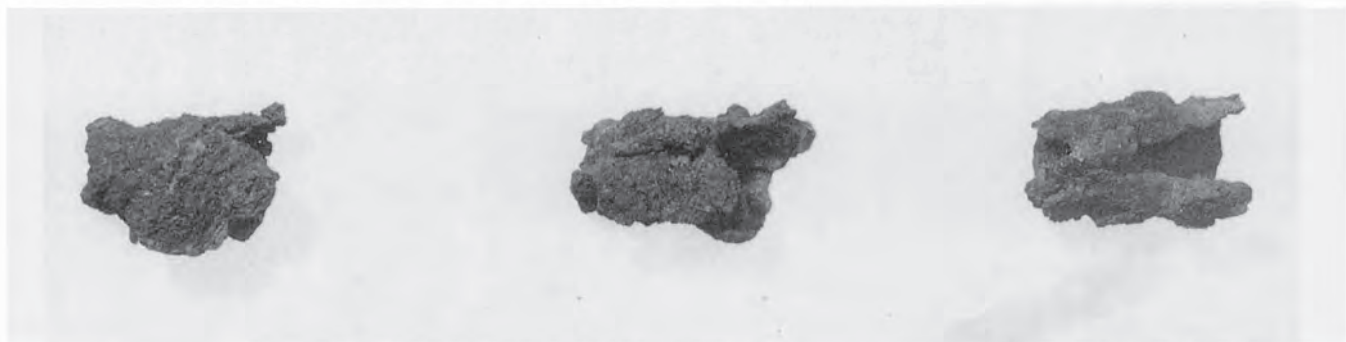
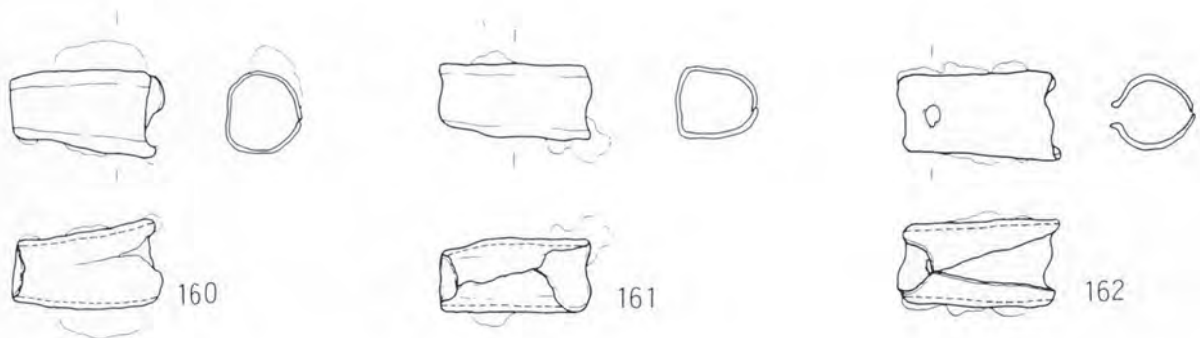


Photo. 70-b



HH05出土鉄製品

Fig. 31

宮古市埋蔵文化財調査報告書 5

赤前遺跡群 第1次・第2次発掘調査報告書

Archaeological Researches in Akamae Sites

A Report on The 1st., 2nd. Research

1984. 3

発 行 岩手県宮古市教育委員会
宮古市新川町2番1号

印 刷 株式会社 文化印刷
岩手県宮古市大通2丁目5の2
